

TECHTOOL PRO

ユーザーズガイド



www.micromat.com

©2011 Micromat Incorporated. All rights reserved.

本ユーザズガイドは記述対象のソフトウェアとともに、使用許諾のもとに供与され、当該使用許諾の条件に従って使用および複製することが許可されます。本ユーザズガイド内の情報は情報提供を目的とした使用のみに提供され、予告なく変更される場合があります、Micromat Inc. によって保証されるものではありません。Micromat Inc. は本ユーザズガイド内のいかなる誤りおよび不正確に対し責任を負わず、補償もいたしかねます。

いかなる場合でも、事前に Micromat Inc. の書面による許可を得ない限り、本書類のいかなる部分をも、その形式、手段を問わず、電子的にも機械的にも、リコーディングまたはその他の方法においても、複製、転載、保存、伝送することはできません。

商標

TechTool は Micromat Inc. の登録商標です。
Apple および Macintosh は Apple Inc. の商標です。

目次

TechTool Pro ユーザーズガイドについて	6
第1章：インストールとシステム要項	7
イントロダクション	8
システム要項	8
TechTool Pro のインストール	9
インストールするには	9
TechTool Protection	11
TechTool Pro DVD の作成	12
インストールされるファイル	14
パーソナライズとユーザ登録	15
Micromat Inc. について	15
第2章：TechTool Pro の概要	16
機能の概要	17
TechTool Pro のインターフェース	17
第3章：TechTool Pro を使用したトラブルシューティング	20
予防メンテナンス	21
トラブルシューティングのヒント	21
修復前のバックアップ	22
万全の準備	22
簡単な問題を最初に解決	22
問題は一つずつ	23
ソフトウェアは最新に	23
情報源の活用	23
記録をつける	24
損傷を受けたドライブからデータを回復する	24
ドライブの問題を修復する	24
最適化	25
部品のテスト	26
第4章：TechTool Pro を使用する	27
TechTool Pro の起動	28
検査のサンプル	29
第5章：テスト	30
自動テスト	31
USB	31
キャッシュ	32
プロセッサ	32

ネットワーク	33
FireWire	34
手動テスト	35
コンピュータテスト	35
メモリテスト	37
サーフェススキャン	41
SMART チェック	44
ボリューム構造	46
ビデオメモリ	49
ファイル構造	51
第6章：ツール	54
eDrive	55
ボリューム再構築	59
ファイル最適化	62
ボリューム最適化	64
ボリュームクローン	67
複製クローン	67
ファイル同期クローン	68
ディスクイメージクローン	69
データリカバリ	70
保護	71
ドライブ	73
ゴミ箱	75
ワイプデータ	77
上書きパターン	77
上書きレベル	78
「ワイプする項目を選択...」 ボタン	78
「選択項目を抹消...」 ボタン	78
「ボリュームを抹消...」 ボタン	78
「空き領域を抹消...」 ボタン	78
ボリュームジャーナリング	79
ディスクアクセス権	80
ローカルネットワーク	81
ビデオ	83
ビデオジオメトリー	83
iSight	84
オーディオ	85
第7章：TechTool Pro レポート	88
第8章：TechTool Protection	92
ボリューム使用状況	94

ディレクトリバックアップ	95
ゴミ箱の履歴	97
SMART チェック	98
メールでの警告	99
第 9 章：TechTool Pro メニューオプション	102
TechTool Pro	103
TechTool Pro について	103
アップデートを確認	103
TechTool Pro を隠す	103
TechTool Pro を終了	103
モード	104
ヘルプ	104
第 10 章：よくある質問	105
第 11 章：参考・ショートカット・便利な機能	108
Mac OS X のリリース	109
TechTool Pro ショートカット	109
便利なキー操作(Apple)	109
Open Firmware の基本コマンド(PowerPC Macs)	110
便利な Terminal コマンド（上級者向け）	110
第 12 章：Mac のファイルシステム	111
ボリュームヘッダ	114
B ツリー	115
カタログファイル	117
エクステンツファイル	119
アロケーションファイル	120
アトリビュートファイル	121
起動ファイル	121
HFS ラッパー	121
ジャーナリング	122
第 13 章：用語集	124
テクニカルサポート	137

TechTool Pro ユーザーズガイドについて

このユーザーズガイドでは、TechTool Pro の数多くの機能や本製品を効果的に使用する方法を説明します。なお、このユーザーズガイドは、Mac と Mac OS X の基本操作に慣れているユーザを対象としています。

ユーザーズガイドの 1 章「インストールとシステム要項」から 3 章「TechTool Pro を使用したトラブルシューティング」までは、イントロダクションで、インストール方法、製品の概要、全般のトラブルシューティングについて説明しています。

4 章の「TechTool Pro を使用する」から 9 章「TechTool Pro メニューオプション」までは、プログラムの各機能について、詳しく解説しています。

10 章「よくある質問」では、お問い合わせの多い質問を Q&A 形式で、11 章「参考・ショートカット・便利な機能」では、覚えておくと便利なショートカットや機能について説明しています。

12 章「Mac のファイルシステム」では、ボリューム構造によって起こる問題や、その修復についてより理解を深められるように、Mac のファイルシステムの概要を説明しています。

また、最後の 13 章「用語集」では、ユーザーズガイド内で使用される専門用語を解説しています。

このマニュアルで使用しているアイコンの意味は次のようになっています。



非常に重要な事項が書かれています。プログラムの誤った使い方やデータの損失を防ぐために、必ずお読みください。



追加の説明や補足情報が書かれています。プログラムをより活用するために、お読みいただくことをお勧めします。

第 1 章：インストールとシステム要項

イントロダクション

TechTool Pro をお買い上げいただきありがとうございます。TechTool Pro は、Mac ユーザのための最も使いやすいメンテナンス（ハードウェアの診断・修復）ユーティリティです。

TechTool Pro では、次のことが行えます。

- コンピュータとデータの保護
- 緊急修復パーティションの作成
- ドライブの診断と問題の修復
- ドライブの最適化
- ボリュームのクローン
- 破損したドライブからのデータ回復
- ローカルネットワーク上のデバイスとサービスの表示
- コンピュータの核となるコンポーネントとサブシステムのテスト
- コンピュータの定期的メンテナンス
- Mac をクラッシュさせる要因の割り出し
- 新たに加えたデータのテスト
- コンピュータの速度のテスト

最も重要なのは、TechTool Pro を使用すれば、経験やコンピュータの知識がなくても、誰でもコンピュータのテストができることです。TechTool Pro では、マウスをクリックするだけで Mac の複雑なコンポーネントの検査が行えます。お使いのコンピュータに問題が見つかったら、修復するか、その状態を改善するための手段が表示されます。

システム要項

TechTool Pro の動作環境は、次のとおりです。

- PowerPC G4 プロセッサまたはそれ以降
- Mac OS X 10.4.9 またはそれ以降
- DVD が読み取り可能なドライブ
- 512 MB 以上の RAM

- Quartz Extreme グラフィックサポート
- TechTool Pro DVD から起動する場合には、Mac OS X 10.5 以降が必要

今後のアップデートにより、システム要項は予告無く変更になる場合があります。
あらかじめご了承ください。

TechTool Pro のインストール

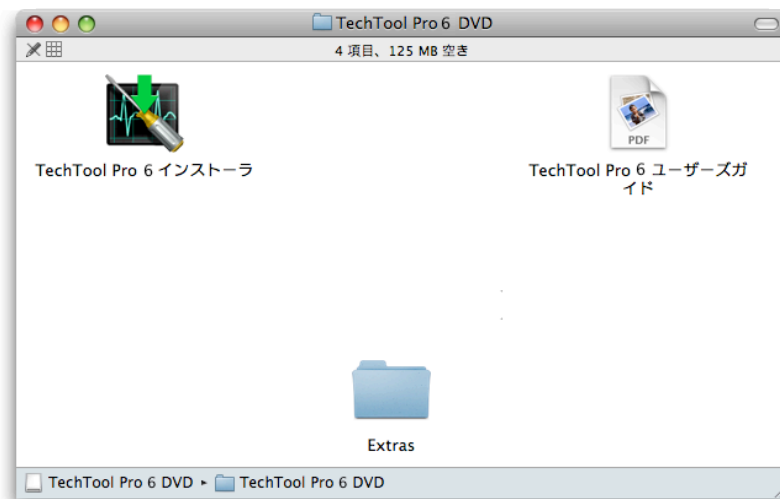
TechTool Pro のインストールは、インストーラによって自動で行われ、アプリケーション、および補助ファイルが的確な場所に配置されます。



お使いのコンピュータ、およびハードディスクに破損やその他の問題の疑いがあるときは、その問題が解決するまで TechTool Pro をインストールしないでください。インストール前に TechTool Pro を起動して、インストールボリュームに問題がないか確認することをおすすめします。TechTool Pro は DVD から直接起動して使うことができます。DVD から起動する方法は DVD の表面を参照してください。コンピュータの検査については、このユーザズガイドの「第 4 章 TechTool Pro を使用する」の「検査のサンプル」を参照してください。

インストールするには

- TechTool Pro DVD を挿入します。
- TechTool Pro インストーラアイコンをダブルクリックします。

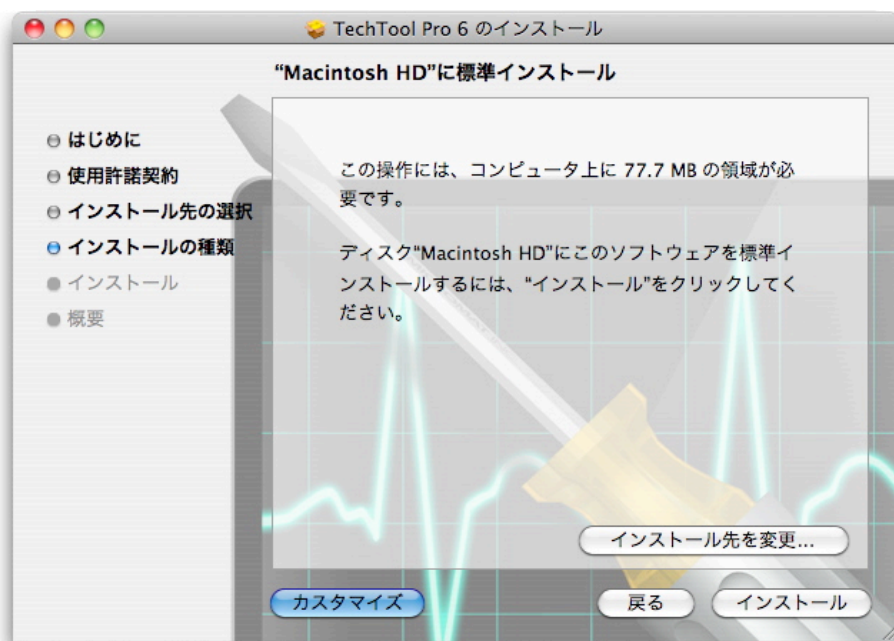


- 管理者パスワードを入力する画面が表示されますので、パスワードを入力します。
- インストール画面の説明を読んで、指示に従ってください。

TechTool Pro は、起動ボリュームの「アプリケーション」フォルダにインストールされます。

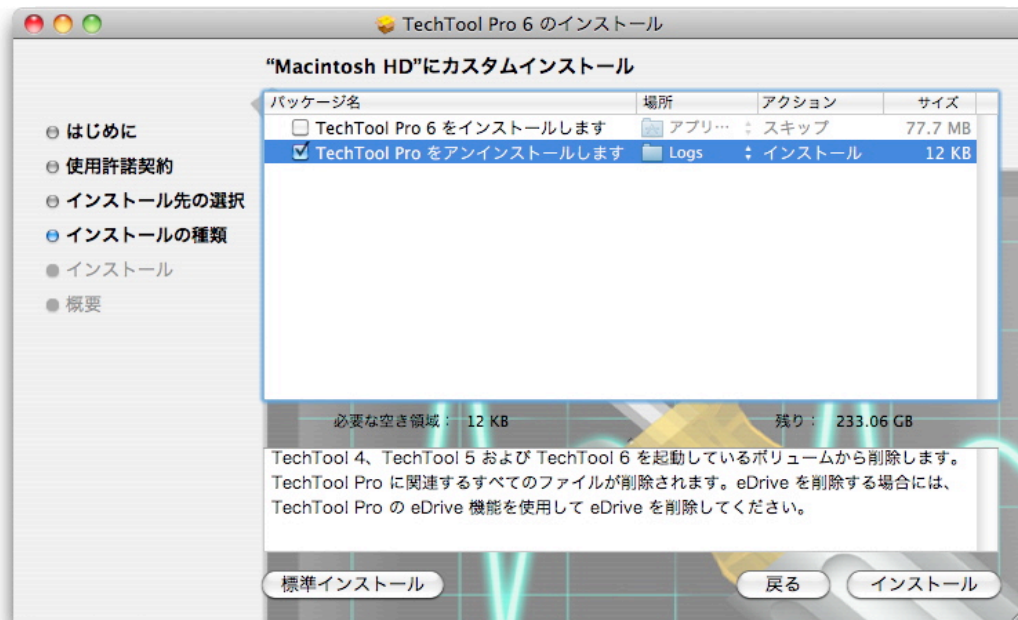


TechTool Pro インストーラには、アンインストールのオプションも用意されています。TechTool Pro をアンインストールするには、メインインストール画面から3番目の画面上の「カスタマイズ」ボタンをクリックします。





次に、「TechTool Pro 6 をインストールします」チェックボックスを外して、「TechTool Pro をアンインストールします」チェックボックスをオンにします。



TechTool Protection

インストール後に TechTool Pro アプリケーションを起動すると、プログラムは TechTool Protection がインストールされているかをチェックします。インストールされていない場合には、ダイアログが表示されて TechTool Protection をインストールするオプションを選択できます。TechTool Protection には、定期的にハードドライブを検証する SMART チェックやゴミ箱のキャッシュなどの、バックグラウンドで動作する機能が備わっています。これらの機能は、システム環境設定内の TechTool Protection 環境設定パネルで設定を変更できます。TechTool Protection をインストールしない場合には、「キャンセル」ボタンをクリックします。

TechTool Pro DVD の作成

Micromat 社のサイトから TechTool Pro 6 Boot DVD を購入された場合には、以下の手順にしたがって、起動可能な DVD を作成する必要があります。

TechTool Pro DVD イメージから起動可能な DVD を作成するには、空の DVD-R または DVD-RW ディスクが必要です。作成する DVD には、オペレーティングシステムとして、インテルベースの Mac 向け Mac OS X 10.6.4 または、Mac OS X 10.5.x を実行できる PowerPC ベースの Mac を起動可能な Mac OS X 10.5.8 が含まれます。

TechTool Pro 6 DVD (Intel) の作成方法:

1. ディスクユーティリティを起動します（ディスクユーティリティは、[アプリケーション] フォルダ内の [ユーティリティ] フォルダにあります）。
2. ダウンロードした “.dmg” ファイルをダブルクリックして、デスクトップ上にマウントします。
3. ディスクユーティリティの左側にあるドライブリストで、.dmg ファイルを選択します。
4. [ディスクを作成] ボタンをクリックします（ディスクユーティリティのツールバーの左上部にあります）。
5. Mac の DVD ドライブに空の DVD を挿入して、[ディスクを作成] ボタンをクリックします。
6. ディスク作成が終了すると、Mac が DVD を取り出します。

TechTool Pro 6 DVD (PowerPC) の作成方法:

1. ダウンロードした “.dmg” ファイルをダブルクリックして、TechTool Pro DVD イメージをデスクトップにマウントします。
2. “Extras” フォルダから TechTool Pro 6 DVD (PPC).dmg ファイルをデスクトップにコピーします。
3. TechTool Pro DVD (PPC).dmg ファイルのコピーが終了したら、TechTool Pro 6 DVD イメージを取り出します。
4. ディスクユーティリティを起動します（ディスクユーティリティは、[アプリケーション] フォルダ内の [ユーティリティ] フォルダにあります）。

5. TechTool Pro 6 DVD (PPC).dmg ディスクイメージをダブルクリックして、デスクトップにマウントします。
6. ディスクユーティリティの左側にあるドライブリストで、TechTool Pro 6 DVD (PPC).dmg ファイルを選択します。
7. [ディスクを作成] ボタンをクリックします（ディスクユーティリティのツールバーの左上部にあります）。
8. Mac の DVD ドライブに空の DVD を挿入して、[ディスクを作成] ボタンをクリックします。
9. ディスク作成が終了すると、Mac が DVD を取り出します。

インストールされるファイル

TechTool Pro をインストールすると、アプリケーション、および関連ファイルが次の場所にインストールされます。



デフォルトでは、TechTool Pro は起動ボリュームの「アプリケーション」フォルダにインストールされます。

- ~/アプリケーション/TechTool Pro

ユーザ毎の設定情報は、以下のファイルに保存されます。

- ~/Library/Preferences/com.micromat.TechToolPro.plist ファイル

TechTool Pro レポートは、以下に保存されます。

- ~/Library/Application Support/TechTool Pro/TechTool Pro.reports

また、TechTool Pro Protection をインストールした場合には、以下のファイルがインストールされます。

- ~/Library/PreferencePanels/TechTool Protection.prefPane ファイル

パーソナライズとユーザ登録

インストールした TechTool Pro を初めて起動すると、ライセンスキーの入力を行います。お名前と所属（必要に応じて）、ライセンスキーを指定の場所に入力してください。ライセンスキーは TechTool Pro を購入した証明となります。今後のプログラムのアップデートなどに必要となりますので、大切に保管してください。登録後にライセンスキーを紛失してしまうとライセンスキーを再発行できない場合がありますので、ご注意ください。

なお、ライセンスキーの登録は、後でオンラインで行うことも可能です。オンラインでの登録は、<http://www.act2.com/support/> より行ってください。

Micromat Inc. について

Micromat Computer Systems Inc. は1989年以来 Mac 用の診断ユーティリティを開発してきました。Mac用診断ツールを初めて提供した企業として、Micromat は Mac ユーザが自分のコンピュータをよみがえらせ、最高の状態で動作させるのに役立つ数多くの新しい技術を切り開いています。

第2章：TechTool Proの概要

機能の概要

TechTool Pro は、さまざまな機能を備えたコンピュータ診断・修復ユーティリティで、ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器を検査する機能が備わっています。TechTool Pro では、お使いのコンピュータシステムで問題が発見された場合、その問題、および解決策をお知らせします。また、問題が修復可能なものであれば、修復を行うこともできます。

TechTool Pro は、数多くの自動チェック機能により、起こりそうな問題に注意を促したり、深刻な問題が起こった際にデータの復旧や修復の可能性を大きくする仕組みになっています。これら自動チェック機能は、必要に応じて設定を変更できます。

また TechTool Pro には、お持ちのコンピュータやデータをより効果的に扱えるようにする機能も数多く備わっています。ドライブのパフォーマンスを向上させるデフラグや最適化、損傷を受けたドライブからデータを復旧するデータリカバリ、機密情報を安全に削除するワイプデータなどがあります。

さらに、TechTool Pro を含めた緊急用起動パーティションをドライブの初期化なしで作成する機能も備わっています。問題が起こった場合には、その緊急用パーティションからコンピュータを起動して TechTool Pro でデータの復旧や修復を試みることが可能です。

TechTool Proのインターフェース

TechTool Pro は、非常に優れたアプリケーションでありながら、使いやすくデザインされています。アプリケーションを起動すると、TechTool Pro アプリケーションウィンドウが表示されます。



TechTool Pro には、「テスト」、「ツール」、「レポート」の3つのカテゴリがあり、アプリケーションを起動すると、「テスト」ウインドウが表示されます。カテゴリは、ウインドウ左上部の3つのアイコンをクリックすると、変更できます。

アプリケーションウインドウの下部には、リアルタイムで個々のプロセッサの使用状況を表すバーグラフが表示されます。




アプリケーションウインドウの TechTool Pro の3つのカテゴリに加えて、システム環境設定の TechTool Protection 環境設定パネルでは、TechTool Pro の自動チェック機能の設定が行えます。

「テスト」カテゴリでは、お使いのコンピュータのハードウェアやボリューム破損のチェックを行います。「ツール」カテゴリでは、データリカバリ、ファイル、およびボリュームのデフラグ、eDrive の作成などのさまざまな機能を個々に実行します。「レポート」ウインドウではテストの結果と「テスト」と「ツール」カテゴリで行った操作へのフィードバックなどが表示されます。「レポート」の情報は、並び替え可能な表形式です。

「テスト」と「ツール」ウィンドウは3つのメインエリアで構成されており、上半分のエリアを「ステージ」といいます。

ステージでは、現在実行しているテストの状態を確認できます。複数のテストの場合には、個々のテストが「キュー」と呼ばれる待機の列に追加されます。キューの状況は、「ステージ」の下部に表示され、テストは左から右の順で実行されます。マウスのカーソルを待機中のテストの上に合わせると、テストの詳細がツールチップに表示されます。「ツール」で行われている処理は固有なため、処理途中での割り込みを避けるためにキューに追加されることはありません。

「ステージ」の左下は、リストから実行したいテストやツールを選択する「タスク選択リスト」です。選択したテストやツールの設定は、右側の「設定」エリアで行います。設定が完了したら、設定エリア内のボタンで、テストをキューに追加、ツールを使用してテストを開始します。「キュー」内の各テストは左から右の順で実行されます。「キュー」内のテストをキャンセルするには、テストのアイコンの右下に表示されているX印をクリックします。現在実行中のテストを含むすべてのテストをキャンセルするには、「ステージ」の右側に表示されている停止ボタン  をクリックします。

TechTool Pro では、さまざまなテストが行われるため、どのテストがいつ実行されたのかや、その結果が常に記録されています。この記録は TechTool Pro のレポートウィンドウで確認することができます。レポートウィンドウには、すべてのテスト結果が一覧で表示されます。レポートウィンドウの左側にあるリストからレポートの種類を選ぶと、レポートを絞り込むことができます。



TechTool Pro のテストは、システムへのアクセスが必要なため、テストを実行すると、Mac OS X のシステム管理者の認証ダイアログが表示されます。セキュリティ上の配慮のため、システム管理者権限は、ある一定の時間のみ有効になります。このため、TechTool Pro を使用する度に、システム管理者のパスワードの入力する必要があります。

第3章：TechTool Proを使用したトラブル シューティング

予防メンテナンス

TechTool Pro の最も重要な機能は、お使いのコンピュータの問題を手遅れになる前に発見し、修復可能にすることです。お使いのシステムに TechTool Pro をインストールすることが、コンピュータの保護に最も有効な手段となるでしょう。TechTool Pro には自動で定期的にボリュームを検査し、ディレクトリをバックアップする機能が搭載されています。これらの設定は、システム環境設定の TechTool Protection 環境設定パネルで行います。

さらに、システムを詳しく検査するために、TechTool Pro のテストを定期的に（例えば毎月）実行することをお勧めします。これにより、お使いのコンピュータの能力を最大限引き出し、クラッシュやデータ消失の可能性を最小に抑えることが可能です。TechTool Pro の「コンピュータテスト」では、総合的なテストをすぐに実行できます。

大切なデータはバックアップを取っておくのが重要です。ハードディスクは壊れることがあり、データの復旧やディスクを修復ができることもあります。ハードディスクが物理的に破損した場合、それを修復できるソフトウェアはありません。バックアップによる保険と安心は大切なものです。バックアップと定期的なシステムの検査にわずかな時間をかけることが、復旧や修復のために使う時間を大幅に節約することにつながるかもしれません。

トラブルシューティングのヒント

コンピュータは精密な機械で、安定した動作は、優れたハードウェアと信頼できるソフトウェアにかかっています。TechTool Pro は検査のプロセスを単純にし、コンピュータに問題が発生した際には、修復するよう設計されています。また、大きな問題に発展する前に、問題を見つけだして修正することも可能です。

データは定期的にバックアップすることをお勧めします。また、1度だけでなく、異なる日時に複数のバックアップをすることも必要です。バックアップファイルがすでに損傷している場合でも、それより前のバックアップファイルがあれば、損傷を受ける前のバージョンを見つけることが可能かもしれません。ドライブは常に問題を起こす可能性を抱えています。問題が物理的、あるいはボリューム構

造によるもので、修復も復旧も不可能な場合は、バックアップが唯一の救済策になります。

以下は、実際に問題が起きた場合に、コンピュータをできるだけ早く復旧させるために役立つヒントです。

修復前のバックアップ

問題が発生した場合、現状のバックアップがあるか確認してください。可能であれば、大切なデータをすぐにバックアップしてください。ボリュームのマウントができない場合は、修復を実行する前に TechTool Pro のデータ復旧機能を使用して、データをバックアップしてください。コンピュータを使用することによって問題が悪化すると、後からデータを復旧することができなくなる恐れがあります。

万全の準備

問題が深刻になる前に、問題の発見、および解決が行えるように予防メンテナンスを習慣にしてください。万一のときに備え、TechTool Pro DVD の保管場所を確認しておくとともに、TechTool Pro でハードドライブ上に緊急用ドライブを設定しておきます。これで、通常の起動ボリュームで問題が起こったときには、緊急用ドライブから起動し、TechTool Pro を使用することができます。また、常に最新データのバックアップを心がけてください。テクニカルサポートへの問い合わせに備えて、お持ちの TechTool Pro のライセンスキーの保管場所も把握しておいてください。

簡単な問題を最初に解決

まず、TechTool Pro を使って起動ディスクのアクセス権を修復してください。一度コンピュータをログアウトした後に、別のユーザとしてログインし、問題が再び発生するのかを確認します。元のユーザアカウントに破損した環境設定ファイルがあるかもしれません。

次に、コンピュータをセーフモードで（[shift]キーを押しながら）起動します。セーフモードで起動すると、起動時に問題の原因として疑われるサードパーティ製のプログラムが無効になります。

最後に、TechTool Pro DVD から起動して、「コンピュータテスト」を実行して問題がないかチェックします。

これらのうちのいずれかで、問題を解決できるかもしれません。

問題は一つずつ

不確定な要因はできる限りなくします。問題が内部ボリュームにあるようなら、電源を切り、すべての周辺機器を外してください。問題が外付けドライブ、およびボリュームにあるようなら、そのドライブのみをコンピュータに接続します。TechTool Pro DVD または eDrive から起動し、TechTool Pro を実行してください。DVD または eDrive から起動することで、テスト中に通常の起動ボリュームでのシステム損傷を防ぎます。

ソフトウェアは最新に

コンピュータの問題の多くは、ソフトウェアによって起こります。多くのソフトウェアメーカーは、定期的にアップデートを行い、不具合や問題点の解決に努めています。ソフトウェアやドライバなどを最新の状態に保つことで、問題が大きくなるのを防ぐことができます。

情報源の活用

Mac ユーザグループ、特定のテーマを扱うインターネットのニュースグループ、ウェブサイト、掲示板、ソフトウェアやハードウェアメーカーのテクニカルサポートなどを利用するのも、問題解決の有効な手段です。

記録をつける

コンピュータの問題解決を行う際には、とった措置と、その結果を記録してください。貴重な資料となり、テクニカルサポートを受ける際にも、非常に役立ちます。措置の内容や結果（エラーメッセージも含めて）を正確に知ることが、問題の解決の近道になります。さらに、後で問題が発生した場合に、これまで気付かなかったパターンを発見できるかもしれません。

損傷を受けたドライブからデータを回復する

自動保護機能を有効にすると、TechTool Pro のデータリカバリ機能により、ファイルの復旧が行いやすくなります。この機能は、システム環境設定の TechTool Protection 環境設定パネルで設定します。

ドライブの問題を修復する

コンピュータにとって、ハードディスクが正常に機能することの重要性は、ご存知のとおりです。ハードディスクにはコンピュータを起動するデータ、アプリケーション、作成したファイルが記録されています。TechTool Pro には、ハードディスクを正常に機能させる強力な検査・修復機能が搭載されています。

このユーザズガイドではハードディスクのことを「ボリューム」と表現しています。ボリュームとは、コンピュータにとって「論理デバイス」と認識される記憶装置です。「ハードディスク（ドライブ）」と「ボリューム」はほとんど同じ意味で使われています。ハードディスクは1つ以上のボリューム（複数のパーティション）を持てますが、ボリュームは1つしかハードディスクを持てません(RAID形式のディスクの中には、複数のドライブを1つのボリュームに見せられるものがあります)。CD-ROM や DVD、フロッピーディスクも1つ以上のボリュームとして表示される場合があります。

Finder でボリュームの内容を表示したとき、通常はボリューム上のすべてのファイルが見えているわけではありません。ボリュームには、不可視ファイルやデータファイルがあります。これにより、コンピュータが特定ボリューム上のデータにアクセスできるようになっています。ファイルカタログ、ディレクトリ、B ツリー、その他オブジェクトのホストなどは、特定の機器にデータがどう保存され

るかを指示します（これらの用語については、本ユーザズガイドの「用語集」の章を参照してください）。これらのアイテムはボリ्यूムの「ボリ्यूム構造」を形作っています。ドライブが破損して TechTool Pro 等のユーティリティにより修復される場合は、物理的にドライブが修復されるわけではなく、ボリ्यूム構造を構成するソフトウェアが修復されます。ボリ्यूム構造に問題が生じた場合、コンピュータが起動できなくなったり、データにアクセスできなくなったりすることがあります。ドライブに物理的な問題が起こった場合、ソフトウェアでは、その問題を修復することはできません。TechTool Pro はボリ्यूム構造の問題を検出し、修復を試みることはもちろん、修復はできなくともドライブを物理的に検査し、問題に対しては注意を促すことができます。

ディスクの問題を検査するには、サーフェススキャンテスト、SMART チェック（該当する場合のみ）とボリ्यूム構造テストを実行してください。これらのテストでは、ドライブハードウェアを徹底的に調べ、ボリ्यूムのディレクトリ内のあらゆる問題を突き止めます。TechTool Pro で問題が発見されると、問題の詳細が報告され、修復可能な問題については、修復を試みることができます。この時点で一度作業を中止し、大切なファイルのバックアップを行うことをお勧めします。問題がボリ्यूム構造であった場合、TechTool Pro のボリ्यूム再構築ツールを使用して修復を試みてください。修復が可能であれば、修復により変更される点についての情報が表示されます。修復の内容を了承できれば、修復作業を進めてください。

修復に成功すれば、ボリ्यूムは正常になります。ボリ्यूム構造が修復できない場合には、そのボリ्यूムを再初期化してデータを復旧する必要があります。

最適化

ハードディスクボリ्यूムから最大のパフォーマンスを得るには、時々デフラグ／最適化を行うことをお勧めします。これは、最大データスループットがきわめて重要なマルチメディアファイルの作業では特に大切です。マルチメディアファイルが断片化されていると、再生をスムーズに行うのに十分な速度でドライブからの読み取りが行えなくなり、動画のフレーム落ちや音声の途切れが再生中に生じるようになります。

最適化は、各ファイルのデータがドライブ上の隣り合った部分に順番に配置され、すべての空きスペースが一か所にまとまるように、ボリューム上のデータを並べ替えます。「最適化」は、TechTool Pro の「ツール」カテゴリから行えます。

最適化を行う前に、そのボリュームのボリューム構造を検査し、必要であれば修復を行ってください。「ボリューム構造テスト」は、TechTool Pro の「テスト」カテゴリから行えます。ボリューム構造テストで問題がなければ、そのボリュームを最適化しても安全です。

部品のテスト

コンピュータが正常に動作するには、各部品が正しく動作する必要があります。TechTool Pro には、チップなどのシステム上の重要な部品を検査し、問題が見つかった場合に報告する、さまざまなテストが搭載されています。コンピュータのメモリ、キャッシュ、プロセッサ、ビデオメモリなどを簡単に検査することができます。5つのハードウェアについての検査は、TechTool Pro を起動した直後に自動で行えます。その他のテストは、「テスト」カテゴリから実行できます。

第4章：TechTool Proを使用する

TechTool Proの起動

TechTool Pro は、デフォルトで起動ボリュームの「アプリケーション」フォルダにインストールされます。TechTool Pro を「アプリケーション」フォルダから移動しないでください。起動するには、TechTool Pro プログラムアイコンをダブルクリックしてください。



また、Dock にも TechTool Pro アイコンが追加されます。Dock 内のアイコンをクリックして TechTool Pro を起動することもできます。



検査のサンプル

TechTool Pro を起動すると、TechTool Pro アプリケーションウィンドウが開きます。



TechTool Pro を起動すると、自動で5つのハードウェアの検査が行われます。検査結果は、ステージ上のメーターに表示されます。

コンピュータのハードディスクや、コンピュータに接続されているデバイスなどの検査を行うには、「テスト」カテゴリから「コンピュータテスト」を選択し、右下に表示される「コンピュータをテスト」ボタンをクリックします。このボタンをクリックするだけで、コンピュータを検査するための複数のテストが次々に実行され、問題が見つかった対処方法が「レポート」に表示されます。

詳しいテスト方法や TechTool Pro の追加機能に関する情報は、このユーザズガイドの該当する章を参照してください。

第5章：テスト




TechTool Pro には、コンピュータのさまざまなハードウェア、ドライブ、その他のコンピュータシステムを検証するためのオプションがあります。起動時に自動実行されるテストや、「テスト」カテゴリから実行するテストなどがあります。テストのオプションについては以下で説明します。

自動テスト

TechTool Pro を起動すると、5つのハードウェアテストが自動実行されます。テストが完了すると、スクリーンの上部のステージエリア内のメーターに、その結果が表示されます。



このテストは、手動のテストの完了後でもステージの右下にあるリフレッシュボタン  をクリックするか、[return] キーか [enter] キーを押すことで実行できます。5つのテストの詳細は以下のとおりです。

USB

USB は Universal Serial Bus (ユニバーサルシリアルバス) の略で、コンピュータに機器を接続する規格のひとつです。USB 1.1の伝送速度は、1.5 Mbps または 12 Mbps ですが、新しく開発された USB 2.0の伝送速度は、最大480 Mbps に向上しています。最近の Mac には、必ず USB ポートが搭載されています。また、USB ポートは、既存のポートに接続した PCI カードや USB ハブを接続して追加することができます。キーボード、マウス、ジョイスティック、ゲームパッドなどの代表的な USB 機器は、低価格です。FireWire とは異なり、USB は周辺機器をマスター/スレーブの関係で制御します。USB は、低コスト、拡張性、自動設定、プラグアンドプレイ、などの優れた性能が特徴です。また、バスに電源供給

が可能なため、複数の周辺機器を AC アダプタを使用せずに接続できる利点があります。

Techtool Pro では、コンピュータにあらかじめ備わっている USB バスが正常に機能しているかをテストします。正常に機能している場合には、USB メーターに USB のスピードが表示されます。テストに失敗した場合や USB を検出できない場合には、その情報がメーターに表示されます。TechTool Pro では、USB ポートに接続した機器自体が正常に機能しているかを確かめることはできません。

キャッシュ

キャッシュは、CPU の動作に伴うデータを保管する高速ランダムアクセスメモリです。頻繁に使用される命令を、このキャッシュに保管することで処理速度が速まります。キャッシュは CPU 自体に組み込まれており、通常のシステムバスに接続されたメモリよりも速くアクセスできます。キャッシュを例えるなら、よく使われる電話番号を付箋で貼り付けた掲示板に例えられるでしょうか。掲示板を見れば、番号がすぐに分かり、その番号が必要になるたびに、電話帳（メインメモリに当たります）から探さなくてもよいのです。

TechTool Pro では、キャッシュの有無を確認し、そのスピードをメーターに表示します。キャッシュのテストに失敗した場合や、キャッシュを検出できない場合には、その情報がメーターに表示されます。

プロセッサ

すべてのコンピュータには、1 つ以上の CPU（Central Processing Unit、中央演算装置）が搭載されており、これがコンピュータの頭脳にあたります。プロセッサには、個々のチップになっている場合（Dual Processor G5など）や、1 チップ上の複数コア（iMac の Intel Core 2 Duo など）、または両方（Dual Quad Core Mac Pro）として存在します。CPU はコンピュータの処理速度を決める主要な部品です。効率の良い設計の CPU なら、速度が遅くても、効率が悪く速度が速い CPU よりも優れた能力を発揮することがあります。

CPU はコンピュータの主要な装置ですが、機能は簡単に理解できます。他の部品からのデータを集め、移動し、単純な論理演算か数値演算処理を行い、結果を返

します。その特色は大量のデータ処理を一瞬で行うところにあります。CPU は毎秒数百万もの命令を処理します。個々の命令は単純なものです、大量の計算を素早く行うために、コンピュータは非常に複雑な作業を短時間でこなしています。

TechTool Pro では、CPU チップの動作を、マシンレベルの命令、より複雑なシステムレベルのデータ処理でテストします。プロセッサのテストが完了すると、プロセッサの速度がプロセッサメーターに表示されます。

ネットワーク

Mac OS X 対応のコンピュータは、すべて Ethernet ネットワークに対応しています。印刷、ローカルネットワーク上の他のコンピュータとの通信、インターネット接続の機能は、ネットワーク機器の正しい組み合わせと動作に左右されます。

Ethernet は最も広く採用されている LAN 技術です。Ethernet はもともと Xerox 社によって開発され、IEEE 802.3 に規格化されています。Ethernet LAN は多彩なケーブルを用いた有線、または無線で構築できます。最も普及している Ethernet システムは 10Base-T 接続を使用し、最大で 10Mbps の伝送速度を提供します。Fast Ethernet や 100Base-T は最大 100Mbps、Gigabit Ethernet は最大 1000Mbps、10-Gigabit Ethernet は 100 億ビット毎秒を実現します。

AirPort は IEEE 802.11 無線ネットワーク規格に対する Apple 社による呼び名です。1999 年に発表された最初の Airport は IEEE 802.11b 規格に基づいています。最大 11Mbps でデータを伝送し、約 45 メートルの範囲で使用できます。2003 年に発表された AirPort Extreme は IEEE 802.11g 規格に基づいています。これは最大伝送速度 54Mbps で約 23 メートルの範囲まで届きます。AirPort、AirPort Extreme とともに、2.4 GHz 帯域の 11 チャンネル内の 1 つで伝送します。

TechTool Pro では、お使いのシステムが認識している、使用可能なすべてのネットワークインターフェースで、下記のテストを行います。

- ネットワークチェック 1 — このテストはシステムのネットワークサービスが使用可能かどうかを確認します。
- ネットワークチェック 2 — このテストはネットワークホスト名が現在のネットワーク環境で接続できるかどうかを確認します。



正常に接続できるかをテストするには、ネットワーク機器から接続確認要求を出さなければならないため、これらのテストを行う際は少なくとも1つは他のネットワーク機器（プリンタ、ルータ、他のコンピュータなど）が接続されている必要があります。

テストが完了すると、ネットワークインターフェースの速度がネットワークメーターに表示されます。複数のネットワークインターフェースが存在する場合、最速値が表示されます。テストが失敗した場合、またはネットワークインターフェースが見つからなかった場合には、その情報がメーターに表示されます。

TechTool Pro では、ネットワーク機器自体をテストすることはできません。ネットワーク機器自体に問題がある場合は、専門の技術者に連絡してください。

FireWire

FireWire は IEEE 1394 として規格化された高速シリアルデータバスのクロスプラットフォーム形式です。FireWire は Apple Computer によって提案され、IEEE 1394 ワーキンググループ内で開発されました。コンピュータや周辺機器間で大量のデータを転送することが可能です。簡単な接続、ホットプラグ、最大 400 Mbps の転送速度が特徴です。また、Apple によって FireWire 800 と名付けられた新型の IEEE 1394b 規格は、800 Mbps のデータ転送が可能です。

FireWire は、今までで最速の転送速度を持つ周辺機器規格です。最新の Mac には 800Mbps、以前の Mac には 400Mbps で作動する FireWire ポートが搭載されています。また、FireWire ポートは既存ポートに接続した PCI カードや FireWire ハブで増設できます。

FireWire の高速な転送速度は、デジタルビデオカメラのようなマルチメディア機器や最新のハードディスクやプリンタのような高速機器を使用するのに最適です。

TechTool Pro では、コンピュータにあらかじめ備わっている FireWire バスが正常に機能しているかをテストします。TechTool Pro では、FireWire 機器自体をテストしてデータが正常に送受信されているかは、確認できないことにご注意ください。

テストが完了すると、FireWire インターフェースの速度が FireWire メーターに表示されます。FireWire インターフェースに問題がある場合や FireWire インターフェースが見つからない場合には、その情報がメーターに表示されます。

手動テスト

TechTool Pro の手動テストを行うには、「テスト」カテゴリをクリックしてテスト選択ウインドウを表示します。テスト選択ウインドウで実行するテストを選択し、右側のテスト設定ウインドウでテストの設定を行います。設定が完了したら、テスト設定ウインドウの右下にある実行ボタンをクリックして、キューに追加します。

個々のテストは、テスト実行中でもキューに表示されている停止ボタンをクリックすると、停止できます。キューに追加されているすべてのテストは、ステージの右下に表示されている大きな停止ボタンをクリックすると、停止できます。

テストが実行されると、ステージ左側に進行状況が表示され、テストが完了すると、ステージ左側の「最後に実行したテスト結果」にテスト結果が表示されます。テスト結果を選択すると、その右側にテスト結果の詳細が表示されます。すべてのテスト結果は、TechTool Pro レポートに保存されます。レポートは「レポート」カテゴリを選択すると、表示されます。

個々のテストの詳細は、以下のとおりです。



コンピュータテスト

アプリケーションの起動時に自動実行されるハードウェアチェックに加えて、ドライブとボリュームを含むコンピュータの部品を徹底的に検査する「コンピュータテスト」を簡単に実行できます。お使いのコンピュータの定期的なメンテナンスとして、月に1、2度実行することをお勧めします。コンピュータの問題は、目で確認できなくても背面で起こっていることがあります。データ損失などの深刻な問題になる前に、できるだけ早い段階で問題を発見し修復することが大切です。

す。TechTool Pro では、このような総合的な一連のテストをワンクリックで行うことができます。

「テスト」カテゴリから「コンピュータテスト」を選択し「コンピュータテストの設定」画面を表示します。



「コンピュータテストの設定」ウィンドウでは、お使いのコンピュータの画像と製造日が表示されます（コンピュータのロジックボードを交換していると表示されないことがあります）。コンピュータに接続されているハードドライブのアイコンも表示されます。マウスのカーソルをアイコン上に置くと、ドライブ識別情報、接続タイプ、ボリューム情報がツールチップに表示されます。

「コンピュータをテスト」ボタンをクリックして、コンピュータとすべてのボリューム/ドライブへのテストを実行してください。実行中のテストについての状況がステージに表示されます。進行状況、および結果も表示されます。

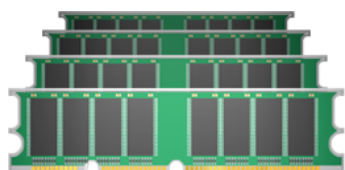


テストが終了すると、すべてのテスト結果がレポートに保存されます。異常が見つかったテストの場合には、アドバイスと対処方法も記録されます。

「コンピュータテスト」で実行される検査は、以下のとおりです。

- メモリテスト — コンピュータの RAM を検査します。
- サーフェススキャン — ハードディスクの物理不正ブロックを検査します。
- SMARTチェック — ハードディスクのSMARTパタメータを検査します。
- ボリューム構造 — Mac フォーマットのボリュームのディレクトリ破損を検査します。このテストはボリュームをアンマウントする必要があるため、起動ボリュームに対しては実行できません。起動ボリュームを検査するには、コンピュータを eDrive または TechTool Pro DVD など で起動してください。
- ビデオメモリ — ビデオ RAM を検査します。
- ファイル構造 — ファイルタイプの損傷を検査します。

個々のテストの詳細については、このマニュアルの各セクションを参照してください。



メモリテスト

ランダムアクセスメモリ (RAM) はコンピュータの重要な部品の一つです。コンピュータ上で行われる処理のほとんどは RAM を経由するため、RAM の正常動作は、コンピュータにとって非常に大切です。また、RAM はコンピュータで最も損傷や故障が起こりやすい部品の一つです。RAM は静電気による損傷にきわめて弱く、手で触れると危険にさらされます。また、他のチップ同様、RAM は高温や温度変化にも敏感です。

多くの不具合は、RAM の不具合よりもはっきりしています。例えば、ハードディスクに問題が発生すれば、「ディスクのエラーのためファイルの書き込みができません」といったダイアログによって、不具合を目で見ることになります。しかし、RAM の不具合は、ソフトウェアが RAM の別々のエリアを別々のタイミングで使用するため、気付きにくいのが現状です。RAM の問題は通常原因不明で脈絡のないクラッシュとして報告されます。RAM の不具合を示す、明確なエラーメッセージはありません。

RAMは非常に壊れやすいものです。静電気、熱はもちろん普通の湿気さえも、RAMを破損させる可能性があります。RAMの不具合により Mac が起動しなくなることもあります。しかし、RAM に不具合が発生した場合に起こる症状はもっと目立たないものです。多くは、通常、起こらないシステムのフリーズです。一般的な対処法では、なかなか問題を発見することはできません。

物理的に損傷を受けたハードディスクのエリアは、ソフトウェアによってもう使用されないように再割り当てすることができますが、不具合のある RAM を再割り当てすることはできません。十分な装備と交換資材のある技術者であれば RAM モジュールを修理することはできますが、修理費用はモジュール全体を交換する費用をはるかに上回るでしょう。

TechTool Pro は、最も包括的といえる Mac 向けのソフトウェアベース Mac OS X メモリテストを搭載しています。さまざまな RAM テストで、Mac メモリを調べることが可能です。TechTool Pro のパターンテストでは、メモリを調査して RAM の問題を探し、問題が見つければ報告します。

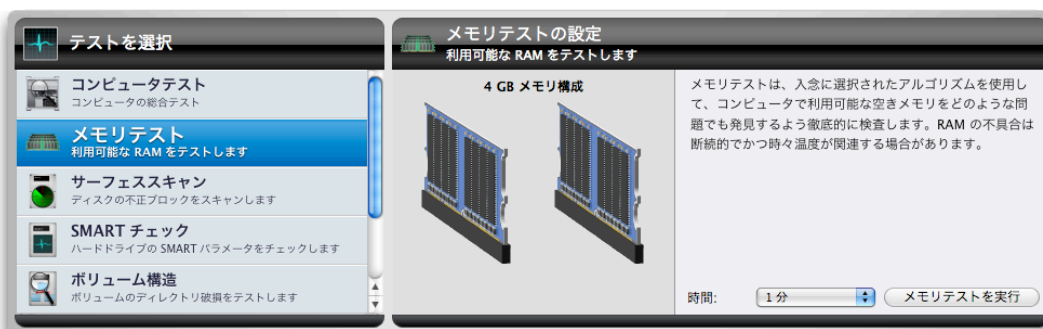
TechTool Pro で行えるメモリテストは、以下のとおりです。

- Address Fault — 最初のパスで、このテストは個々のメモリセルのアドレスをセル自体に書き込みます。2度目のパスでそのアドレスが読み込まれ、アドレス空間の一意性が検査されます。
- Checkerboard — このテストは4つのパスから構成されます。1つめのパスでパターンを書き込みます（実行毎で異なります）。2つめのパスでパターンの読み込み/検査を行い、オリジナルのパターンを逆にします。3つめのパスで、逆パターンを読み込み/検査し、オリジナルパターンを書き込むためにメモリの後下方へ移動します。最後の4つめのパスでオリジナルパターンを検査します。
- Extended March C — このテストは6つのパスから構成され複雑なアルゴリズムを使用します。最初の3つのパスでメモリの上方に移動し、0または1を書き込み後、読み込み/検査します。次の2つのパスで下方に移動し、0と1の読み込み/書き込みを再び行います（交互に）。最後のパスでどちらかに移動し、最後の書き込みが成功したかを検査します。このテス

トは、address faults, coupling faults, stuck-at faults, stuck-open faults と transition faults を検出します。

- MATS++ — このテストは3つのパスから構成されます。最初のパスは0を書き込み、下方へ移動します。2つめのパスで上方へ移動し、0の読み込み/検査を行い、1を書き込みます。3つめで下方へ移動し、最後に書き込まれた1の読み込みと検査を行い、直ちに個々のセルに0を書き込み、検査します。
- Moving Inversion — このテストは最初にメモリの上方に移動し、0と1の交互のパターンを書き込みます。2つめのパスは上方へ移動しパターンの読み込み/検査を行った後、オリジナルパターンの逆パターンを書き込みます。3つめのパスはメモリの下方へ移動し、逆パターンの読み込み/検査を行い、オリジナルパターンの書き込みを行います。4つめのパスは再びメモリの下方へ移動し、オリジナルパターンの読み込み/検査を行います。
- Sliding (Walking 1's) — バイトは8ビットのため、このテストは2つのパスで個々のパターンの書き込み/検査を行い、2つのパスで逆パターンの書き込み/検査し、8 ラウンドで32パスを実行します。ビットパターン00000001で開始し、個々のメモリセルにパターンの書き込み/読み込みが行われます。その後このパターンは11111110に反転され、書き込み/検査が行われます。そして1を1つずつシフトさせる作業を全8ラウンド内で繰り返します。このアルゴリズムは、特定なメモリセルが個々のビットが隣のビットの逆の値を正確に保持できるかを確実にするためのものです。

「テスト」カテゴリから「メモリテスト」を選択し、「メモリテストの設定」画面を表示します。

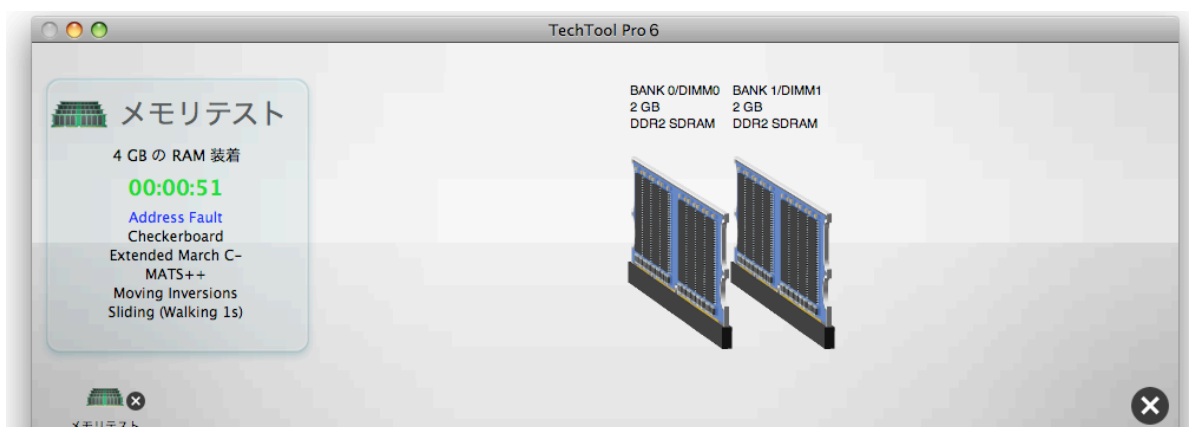


「時間」ポップダウンメニューからテストの実行時間を選択し、「メモリテストを実行」ボタンをクリックします。「メモリテストを実行」ボタンをクリックすると、キューに追加されます。メモリに関わる問題の多くは間欠的なため、テストの実行時間を長くすると、既存の問題を発見する確立が高くなります。

テストが実行されると、ステージにスロットの使用状況、インストールされているメモリのタイプとサイズなどの情報が表示されます。また、以下の情報がスロットごとに表示されます。

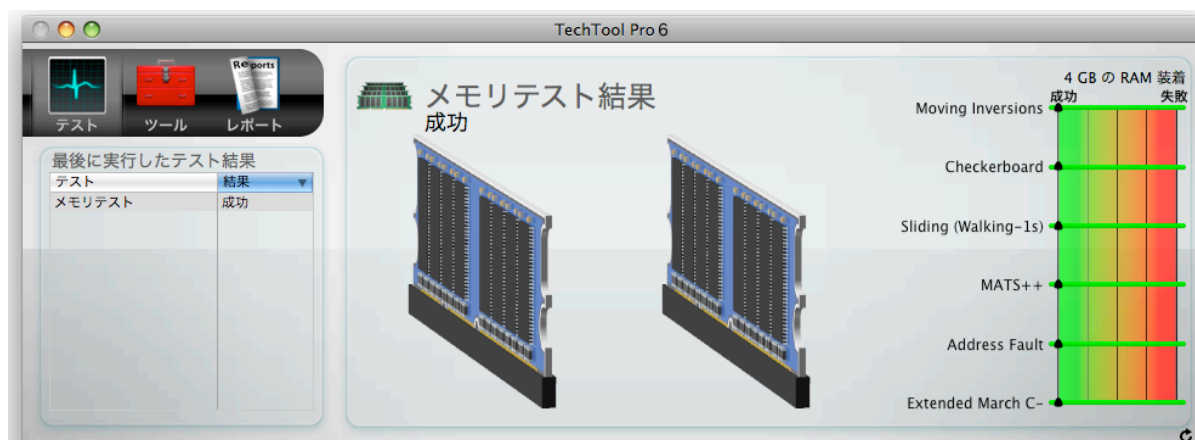
- スロット ID とそれが使用されているかどうか。
- メモリのサイズ（使用されている場合）。
- メモリの種類（使用されている場合）。
- メモリのモデル名（使用されている場合）。

実行中の個々のメモリテストと残り時間が、ステージの左上のエリアに表示されます。



テストを停止したい場合には、キューに表示されているテストアイコンのキャンセルボタンをクリックします。

テストが完了すると、ステージの右側にメモリテスト結果が画像と共に表示され、ステージの左側の「最後に実行したテスト結果」にテスト結果が表示されます。



テストが完了すると、テスト結果が「レポート」に保存されます。

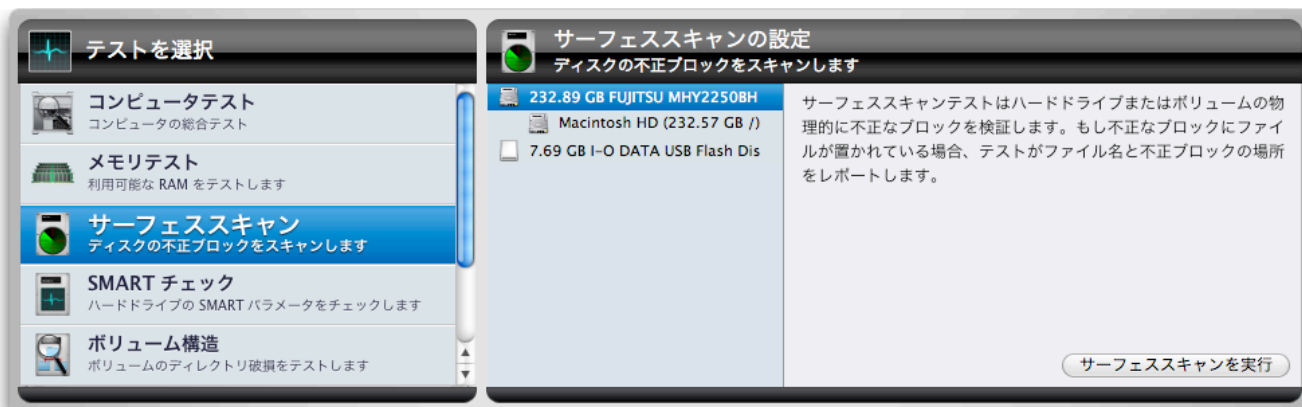


サーフェススキャン

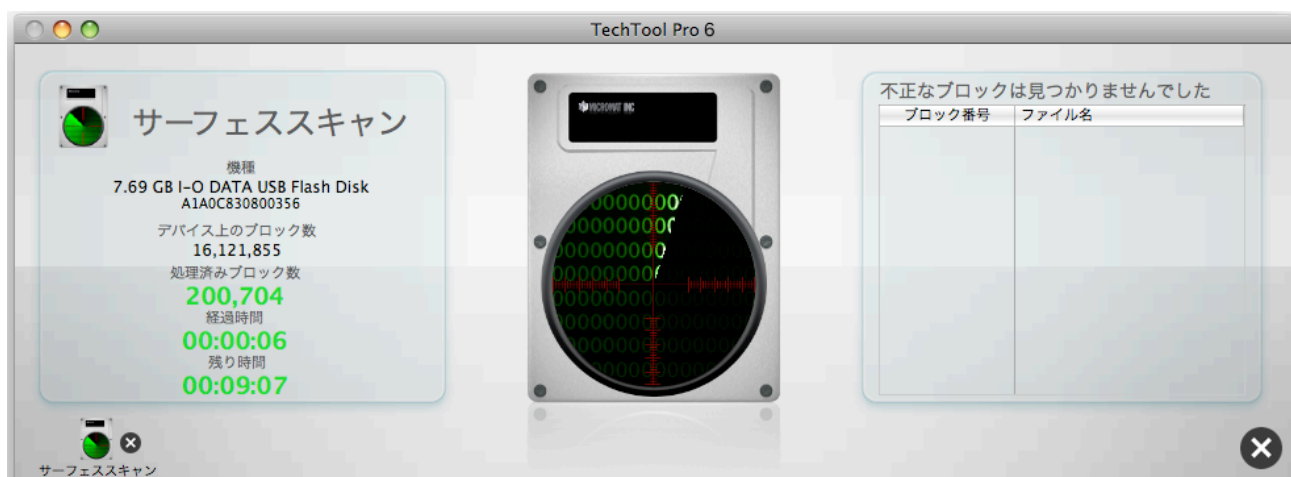
TechTool Proはハードディスクの不良ブロックを検査するサーフェススキャンを実行できます。不良ブロックは、データを安定して保存できないメディアの領域です。すべてのハードディスクには、製造時に多少の不良ブロックができます。不良ブロックはメーカーの工場、または「ゼロ書き込み」オプションでドライブを再初期化する際に位置が示されます。不良ブロックの位置は「不良ブロックテーブル」に保存されます。一度不良ブロックの位置が示されると、データが不良ブロックに書き込まれることはありません。時には正常なブロックが不良ブロックになることもあります。ファイルを保存しているブロックでこれが発生すると、そのファイルは破損することがあります。

TechTool Pro のサーフェススキャンテストでは、物理ドライブ内の不良ブロックの検査をし、不良を発見した場合に報告します。さらに不良ブロックのエリア内にファイルが存在する場合には、ファイル名を報告します。サーフェススキャンはドライブ上のあらゆるブロックからデータを読み取り、ドライブ表面の統一性を調べます。

「テスト」カテゴリから「サーフェススキャン」を選択し「サーフェススキャンの設定」画面を表示します。



コンピュータに認識されている、すべてのハードドライブが設定画面の左側に、ドライブ名の右下に表示されるパーティションと一緒に表示されます。テストを行いたいハードドライブまたはボリューム（特定のパーティション）を選択して、「サーフェススキャンを実行」ボタンをクリックすると、キューにテストが追加されます。テストが実行されると、ドライブから読み込まれているデータがステージの中心に表示されます。



サーフェススキャンテストはドライブ上の全てのブロックからデータを読み込み調べる必要があるため、容量の大きいハードディスクでは完了するのに数時間かかることがあります。

ステージの左側のペインでは、ドライブとテスト進行状況が表示されます。

- 機種
- デバイスのシリアル番号（もし利用可能であれば）
- デバイス上のブロック数

- 処理済みブロック数
- 経過時間
- 残り時間

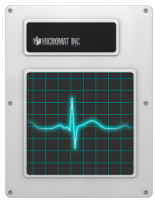
不正ブロックを発見した場合には、ステージの右側にブロック番号を表示され、ファイルが不正ブロック内に存在する場合には、ファイル名も表示されます。この情報は、テストが終了した後は「レポート」から参照可能です。

ATA と SATA は最も広く使われているハードディスクドライブです。新しい Mac の多くには、はじめから搭載されており、一般に USB や FireWire とともに使用されます。TechTool Pro では、通常これらのドライブの不良ブロックを報告することはありません。これらのドライブのドライブコントローラは、不良ブロックが見つかりと自動的にそれが閉鎖されます。不良ブロックがその時点では閉鎖できない重要な領域にあるか、不良ブロックテーブルがいっぱいになった場合には、TechTool Pro により不正ブロックが報告されるので、最終手段としてドライブの再初期化を行います。ドライブが再初期化されると、プラッター全体がアクセス可能となり、不正ブロックを閉鎖できるようになります。



ドライブの再初期化は、ドライブ上の全ての情報を消去します。再初期化の前に必ずデータのバックアップを行ってください。

ドライブの再初期化には、たいてい Apple のディスクユーティリティかドライブセットアップを使用します。その際には、「ゼロ書き込み」オプションを選択するようにしてください。「ゼロ書き込み」はドライブの容量により、数時間かかる場合があります。これはディスク表面上で見つかった不良ブロックを調べ、閉鎖しようとしています。再初期化が成功すれば、そのドライブはその時点では問題がないといえます。失敗した場合は、そのドライブは壊れており、交換する必要があると判断されます。



SMART チェック

SMART は Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology の略です。この技術はハードドライブの信頼性を高めるため、主要なハードディスクメーカーの連合である SMART ワーキンググループ (SWG) の努力によって開発されました。SMART ルーチンは現在ほとんどの新しいハードディスクドライブで採用されています。SMART の規格は SWG で開発されましたが、各ドライブメーカーはそれぞれが所有するルーチンを自社のドライブに使用しています。そのルーチンは、ドライブ作動中にドライブの重要なパラメータを監視し、その結果をドライブの SMART レジストリに保存します。これらのパラメータの調査と分析は、ドライブの不具合を予測するのに役に立ちます。これにより、壊れる前にデータのバックアップや、ドライブの修復または交換が必要であることが警告されます。SMART の監視は70%のドライブハードウェアの不具合を発生前に予測できると推計されています。全てのドライブの不具合は予想できないにせよ、SMART はそのような問題に対する高レベルの保険になります。

SMART テクノロジは使用中のドライブを監視し、異常な動作を探します。そのルーチンはディスクパフォーマンス、不良セクタ、キャリブレーション、CRC エラー、ディスク回転数、ヘッドとディスク間の距離、温度、メディアの特徴、ヘッド、モータ、サーボ機構を追跡します。例えば、モータおよびベアリングの故障は、ドライブ回転数の増加と、ドライブを一回転させるのに必要としたやり直しの回数の増加から予測が可能です。エラー修正ルーチンの度重なる使用は、ドライブヘッドの損傷やヘッドの汚れを示していることがあります。これらのエラーを早めに見つければ、後に起こる惨事を防げるかもしれません。

SMART の仕様は、ドライブが正確にデータの読み書きができることを検査する、ドライブセルフテストルーチンを含んでいます。TechTool Pro SMART ルーチンは、SMART レジストリに保存された結果のチェックやドライブへのセルフテストを実行できます。いずれかで問題が発見された場合には、ドライブに何らかの不具合が発生する可能性を示唆しています。この事前の警告により、データにアクセスできなくなる前にバックアップするための十分な時間を確保できます。

「テスト」カテゴリから「SMART チェック」を選択し「SMART チェックの設定」画面を表示します。



左側のドライブリストから、テストを行うドライブを選択します。「SMART チェックを実行」ボタンをクリックして、テストをキューに追加します。テストが実行されると、ステージの左側にデバイス上のボリュームと、テストされているデバイスの名前が表示されます。右側には、個々の SMART パラメータの結果がグラフで表示されます。



グラフはパラメータ識別子（ドライブメーカーから利用可能な場合）とパラメータ番号で、緑色の部分はパラメータが不具合のしきい値よりかなり上にあることを示します。しきい値に近づくほどに黄色になります。パラメータが不具合のしきい値より下になる場合には、赤色で表示されます。テストが完了すると、テスト結果が「レポート」に保存されます。

SMART テストを失敗し、ドライブの使用を継続する場合には、ドライブのデータのバックアップしてください。近いうちにドライブに不具合が発生する可能性があります。ドライブの保証期間内で不具合が発生しているのであれば、ドライブメーカーにご連絡ください。SMART が失敗するのであれば、メーカーはドライブを交換してくれるはずです。



SMART は ATA もしくは SATA ドライブのみで利用可能です。SCSI ドライブは SMART をサポートしません。FireWire や USB ドライブのインターフェースは、たとえドライブ装置内のドライブが ATA ドライブであっても SMART テストルーチンの実行に必要な SMART 命令を通すことができません。



ボリューム構造

ファイルを探したり、ディスクスペースを空けたり、その他のメンテナンスや管理ルーチン用に Mac のファイルシステムが使用する、さまざまな不可視ファイル、設定、パラメータが存在します。これらはまとめて「ボリューム構造」として知られています。「カタログ」や「ディスクディレクトリ」はボリューム構造の一部です。特にボリューム構造は、ボリューム上のフォルダ同士の階層、ボリューム上にどのようなファイルが保存されているか、それらのファイルを構成する各部分はどこにあるかを管理しています。個々のファイルは実際にはディスクの表面に散らばった多数の部分に保存されています。ボリュームの重要なデータ構造を損傷するとファイルが失われたり破損する可能性があります、ボリュームの完全な再初期化を行う必要が生じるかもしれません（そのボリュームはデータが消失します）。

ボリューム構造の損傷はいろいろな形で現れます。ファイルやフォルダの紛失としても現れますし、ファイルが破損すればファイルを開くかプログラムを起動しようとした時にエラーが発生します。ファイルのある場所から他の位置にコピーするときやゴミ箱を空にしようとするとき問題が生じることもあります。最悪の場合には、ボリュームをシステムが認識できなくなります。一般に、ボリューム構造の問題は時間がたつほど深刻になっていきます。復旧や修復の可能性が最も

高い早期に問題を発見するのが一番望ましいといえます。メンテナンスの一環として、定期的（毎月など）にボリューム構造の検査することをお勧めします。

TechTool Pro は、ボリュームが適切に機能するために必要な、さまざまな構造を検査します。以下の項目を分析し、修復することが可能です。

- **ブートブロック** — ボリュームが生み出される際に作成されます。これらが破損していると、そのボリュームからコンピュータを起動できない場合があります。
- **マスターディレクトリブロック** — ボリュームが作成されるときに作られ、ボリュームのその他の部分に関する重要な情報が収められています。これは全ての HFS ボリュームと HFS+ボリュームヘッダに存在します。ほとんどの HFS+ボリュームには HFS ラッパーがあるため、HFS+ボリュームもマスターディレクトリブロックを持っています。
- **ボリュームヘッダ** — HFS+ボリュームが作成される際に作られ、名前、ファイルやフォルダの数、ボリューム上の空きスペースの数など、ボリュームの残り部分に関する重要な情報が収められています。
- **アロケーションファイル（ビットマップ）** — メインディレクトリとして振る舞います。これは使用するよう割り当てられたブロックと空きブロックを管理します。
- **エクステントファイル(B ツリー)** — ボリューム全体のエクステントデータをおさめています。エクステントはファイル全体を構成する別々の部分です。
- **カタログファイル(B ツリー)** — ボリューム上の全てのファイルとフォルダを管理します。
- **アトリビュートファイル** — ボリューム上の各ファイルとフォルダの全ての特性を管理します。ファイルがロックされているかどうか、前回ボリュームがバックアップされた時間などです。
- **起動ファイル** — 起動ファイル内のパラメータは、コンピュータを起動す

るプログラムを決めるためコンピュータの ROM に使用される情報を収めています。多くの場合において、「システム」を指定するように設定されます。



ボリューム構造についての詳細は、後述の「Mac のファイルシステム」の章を参照してください。

「テスト」カテゴリから「ボリューム構造」を選択し「ボリューム構造の設定」画面を表示します。



テストするボリュームを選択して「ボリューム構造テストを実行」ボタンをクリックして、テストをキューに追加します。



ボリューム構造をテストするには、そのボリュームをアンマウントする必要があります。このため、起動ボリュームのボリューム構造テストを行うことはできません。起動ボリュームのボリューム構造テストを行うためには、TechTool Pro DVD や eDrive で、コンピュータを起動して TechTool Pro を実行してください。



TechTool Pro では、破損しているボリュームやデスクトップにマウントできないボリュームのテストは行えません。

テストが実行されると、ステージ上に情報が表示されます。



ステージの左側に、テストの進行状況と経過時間が表示されます。ボリューム構造で現在検査されている項目が右側に表示されます。個々のテストが完了し、テストをパスすると右側のランプが緑色、テストに失敗すると赤色で点灯します。テストが進行すると、ボリュームから読み込んでいるデータがステージの中央に表示されます。

テスト中に問題が発見されると、ステージにメッセージが表示され、結果が「レポート」に保存されます。問題が発見された場合には、ボリューム内の大切なデータのバックアップを取ってください。その後で、TechTool Pro のボリューム再構築ツールを使用し、ボリュームの修復を行ってください。ボリュームの再構築に失敗した場合には、次のステップは Apple のディスクユーティリティを使用してボリュームを再初期化を行い、データを復元することになります。



ビデオメモリ

ビデオ RAM は、コンピュータの画面に表示されるイメージを保存するメモリです。コンピュータビデオ回路の他の重要な装置と同様、VRAM は画像が正常に表示されるためには、常に完全に機能していなければなりません。損傷した VRAM はビット欠け、画面ノイズ、システムロックアップ、フリーズなどを起こすことがあります。

ビデオメモリテストでは、メインメモリテストと同じ内容のテストを行います。テストの詳細については、「メモリテスト」を参照してください。

「テスト」カテゴリから「ビデオメモリ」を選択し「ビデオメモリの設定」画面を表示します。



「ビデオメモリテストを実行」ボタンをクリックして、テストをキューに追加します。テストが実行されると、コンピュータのスクリーンに奇妙な色やパターンが表示されますが、これは正常な動作です。テストが完了すると、テスト結果がステージ上の「最後に実行したテスト」と「ビデオメモリテスト結果」画面に表示されます。



また、ビデオメモリテスト結果は「レポート」にも保存されます。



TechTool Pro はビデオメモリをメインモニタでテストします。別のモニタを調べるには、テストを行う前にそのモニタをメインモニ

タに設定しておいてください。この設定は「システム環境設定」の「ディスプレイ」で行えます。



ファイル構造

TechTool Pro のファイル構造テストでは、さまざまな種類のファイルについて破損していないかを確認することができます。テストでは、個々のファイルがその仕様に沿って構成されているかを検査します。異常なファイルや破損したファイルを見つけた場合には、そのファイルが報告されます。ファイル内のデータがもともとどのようなものだったかを知る手段がないため、TechTool Pro は破損したファイルを修復することはできません。破損したファイルが見つかった場合には、それらを削除し、信頼できる入手先から入手し直してください。



報告されたファイルが必ずしも、問題があるとは限りません。報告されたファイルは、あくまでもファイルタイプが本来の型どおりではないことを意味します。該当するファイルによって、コンピュータ、またはアプリケーションに影響があるようであれば、ファイルを一時的に削除するか、可能であれば新たに作成したコピーで置き換える措置を検討してみてください。

TechTool Pro では、ファイルタイプが正しいことを検査し、ファイル内の実データをチェックすることはできません。例えば、GIF グラフィックファイルが仕様に沿って構成されているかはチェックできますが、グラフィックファイル内のピクセルが不正で、そのピクセルによって画像の表示がおかしくなることについてはチェックできません。



ファイルタイプはその拡張子によって決められます。拡張子とはファイル名の後のピリオドの後に付加される3～4の文字のことです。Mac OS X は通常 Finder 内では拡張子は表示しません（Finder の環境設定で変更可能です）。もしファイルが不正な拡張子を持っている場合には、ファイルが不正に認識されているため、ファイル構造テストはエラーファイルとしてレポートします。

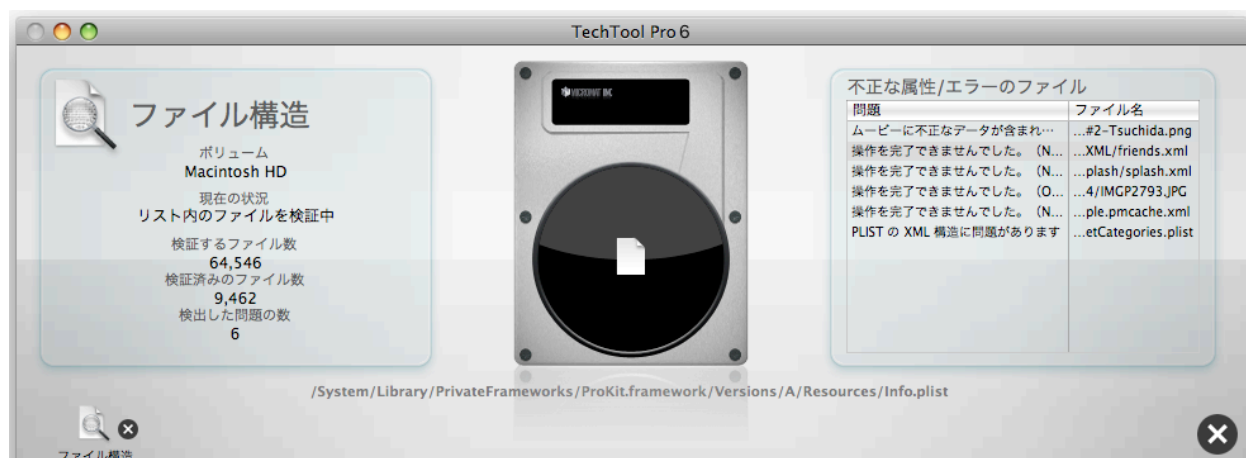
「テスト」カテゴリから「ファイル構造」を選択し「ファイル構造の設定」画面を表示します。



「ファイル構造の設定」画面では、コンピュータに接続された Mac でフォーマットされたボリュームをリストします。テストするボリュームを選択し、右側のオプションからテストするファイルタイプをチェックしてください。テストできるファイルタイプは以下のとおりです。

- データベース (例: plist と xml ファイル)
- 画像ファイル(例: bmp, gif, jpg, png, tiff ファイル)
- 時系列メディア (例: MPEG, MP3 ファイル)

テストするファイルタイプを選択したら、「ファイル構造テストを実行」ボタンをクリックし、テストをキューに追加します。テストが実行されるとテスト情報がステージに表示されます。



ステージの左側には、テストの進行状況と以下の情報が表示されます。

- ボリューム名
- 検証するファイル数
- 検証済みのファイル数
- 検出した問題の数

TechTool Pro では、以下のファイルタイプをテストします。

- PLIST, XML
- BMP, GIF, PNG, JPEG, TIFF
- MPEG, MP3

その他のファイルタイプは、今後追加されるかもしれません。

ファイルの検証が始まると、ドライブの画像の下に、現在検証しているファイルのフルパスが表示されます。ステージの右側には検出した問題と問題があるファイル名が表示されます。ファイル名にカーソルを置くとフルパスが表示されます。

テストが完了すると、ステージにテスト結果が表示されます。



ボリューム名、検証したファイルの数、検出した問題の数が表示されます。右側のリストに表示されている、エラーのファイルリストからファイル名を選択し、「ファイル名を表示」ボタンをクリックすると、該当するファイルが Finder に表示されます。また、テスト結果は「レポート」にも保存されます。

第6章：ツール



TechTool Pro の「ツール」カテゴリでは、以下のツールが利用できます。

- eDrive — eDrive パーティションの作成、削除、マウント、再起動
- ボリューム再構築 — ボリュームディレクトリの再構築と修復
- ファイル最適化 — ボリューム上のファイルのデフラグ
- ボリューム最適化 — ボリューム上の空き領域の統合
- ボリュームクローン — ボリュームのクローンまたはディスクイメージの作成
- データリカバリ — 破損したボリュームまたはゴミ箱のデータリカバリ
- ワイプデータ — ボリュームから安全にデータを削除
- ボリュームジャーナリング — ファイルシステムのジャーナリングを有効・無効
- ディスクアクセス権 — ディスクアクセス権の検査と修復
- ローカルネットワーク — ローカルネットワーク上の Bonjour 互換デバイスやサービスの表示
- ビデオ — ディスプレイと iSight の検査
- オーディオ — オーディオ信号の制御と監視

リストからツールを選択してツールの設定画面を表示します。

ツールはテストとは異なり実行中に割り込みを行うことができないため、キューには追加されません。個々のツールの詳細は以下のとおりです。



eDrive

ハードディスクドライブに TechTool Pro を含む非常用起動パーティションを作成します。新しいパーティションは、ドライブを再初期化することなく作成できます。eDrive には、基本的な Mac OS X システムと TechTool Pro が入っています。起動ボリュームに問題があった場合、コンピュータを eDrive から再起動でき、復旧と修復に必要なツールにすぐアクセスできます。システムボリュームの修復やメンテナンスのための起動可能な DVD や補助ハードディスクの必要がありません。特に、ノートタイプのコンピュータを使用する際に便利です。eDrive をインストールしていれば、外出時も修復用 DVD を持ち歩く必要はありません。

eDrive は、TechTool Pro のアップデートもダウンロードで行います。新しいプログラムの DVD を持っていない場合にも有益です。



eDrive の作成と削除、ボリューム最適化、ボリューム再構築などの主要なツールを実行する前に、必ず大切なデータのバックアップを作成してください。

「ツール」カテゴリから「eDrive」を選択して「eDrive の設定」画面を表示します。



「eDrive 作成ボリューム」ポップダウンメニューで eDrive を作成したいボリュームを選択します。起動ボリュームまたは外部のボリュームが選択できます。ポップダウンメニューの下に、ボリュームのサイズと空き領域が表示されます。



Mac OS X 10.5 より前のシステムを使用している場合、起動ボリュームに eDrive を選択すると、TechTool Pro DVD からの起動が必要になります。



eDrive パーティションには eDrive 作成ボリュームに 12 GB の領域が必要です（必要な領域は、今後のアップデートで変わる可能性があります）。さらに、eDrive 作成後に少なくとも 10% から 15% の空き領域が必要です。



RAID ボリュームは RAID ソフトウェアによって制御されるため、RAID ボリュームに eDrive は作成できません。

「Mac OS X 元ボリューム」ポップダウンメニューで eDrive にコピーする Mac OS X のシステムが保存されているボリュームを選択します。Mac OS X のバージョンとビルド番号がポップダウンメニューの下に表示されます。



eDrive を作成する前に、Mac OS X 元ボリューム上の FileVault は無効になっていなければいけません。eDrive を作成後に FileVault を有効にすることはできません。

2つのポップダウンメニューの下には、eDrive のステータスが表示されます。eDrive が既に存在する場合には、eDrive が既に存在するメッセージが表示され、2つのポップダウンメニューが選択できなくなります。eDrive は一度に一つしか作成できません。

eDrive を作成するには、「eDrive 作成ボリューム」と「Mac OS X 元ボリューム」のポップダウンメニューを選択し、「eDrive を作成」ボタンをクリックします。eDrive は以下の5つのステップで作成されます。

- パーティション作成 — ドライブをチェックし、eDrive パーティションが作成されます。
- アプリケーション — Mac OS X 元ボリューム内のアプリケーションが eDrive にコピーされます。
- ユーザ — Mac OS X 元ボリューム内のユーザフォルダが eDrive にコピーされます。
- Mac OS X ファイル — Mac OS X 元ボリューム内のシステムとライブラリファイルが eDrive にコピーされます。
- プリンタ — Mac OS X 元ボリューム内のプリンタフォルダが eDrive にコピーされます。

eDrive パーティション作成とファイルコピーの進行状況がステージ上に表示されます。



eDrive パーティションにファイルがコピーされると、ファイル名がステージのアニメーションの下に表示されます。

通常、eDrive を作成するのに要する時間は、30分から1時間です。しかし、eDrive 作成ボリュームに eDrive パーティション用の十分な連続した空き領域がない場合には、パーティションを作成中にファイルを移動させる必要があるため、これ以上の時間が必要となります。ステージの右下にある「停止」ボタンを押すと eDrive 作成を中止できます。完了していない eDrive が作成されますが、「eDrive を削除」オプションを使用すると、削除できます。

また、「eDrive を削除」ボタンを使用して、既存の eDrive を削除し、eDrive パーティションで使用されていた領域をオリジナルのボリュームに戻すことができます。

「eDrive を再起動」ボタンをクリックしてコンピュータを eDrive から再起動します（このボタンは TechTool Pro DVD から起動している場合には選択できません）。また、再起動時に [option] キーを押したままにして、eDrive を起動ボリュームとして選択することもできます。コンピュータが eDrive から起動されると TechTool Pro が自動で起動します。eDrive で起動中に TechTool Pro を終了させると、起動ディスクペインが表示され、再起動するボリュームを選択できます。

TechTool Pro がインストールされている起動ボリュームから起動された場合、eDrive はデスクトップから自動的にアンマウントされます。これは、通常のコンピュータの使用によるファイル破損から eDrive を保護するためです。なお、eDrive の内容を変更しないでください。eDrive の内容を変更すると、非常時に eDrive が利用できなくなる可能性があります。eDrive がアンマウントされているときは、

システム環境設定の起動ディスクに eDrive が表示されなくなります。「eDrive をマウント」ボタンをクリックすると、eDrive をデスクトップにマウントできます。



eDrive から起動しているときは、コンピュータを通常の用途に使用しないでください。非常時のデータ復旧やボリューム構造の修復、最適化を行う場合のみに使用してください。eDrive の Mac OS X は必要最低限のシステム構成になっています。TechTool Pro 以外のプログラムは正常に動作しないことがあり、問題やデータ消失を引き起こす可能性があります。



ボリューム再構築

ボリューム構造には、ハードドライブ上のすべてのファイルとフォルダが記録されています。この情報はいくつかのデータ構造に保存されていて、そのいくつかは「ツリー」として配置されています。データが頻繁に読み書きされると、ツリー構造内のデータの配置は不均等になります。これにより、データ構造が複雑になり、データが断片化するためにデータにアクセスする速度が低下します。

ボリューム構造についての詳細は、このユーザズガイドの「ボリューム構造テスト」または「Mac のファイルシステム」の章を参照してください。

ボリューム再構築は、完全に最適化されたディレクトリデータ構造を持つ、新しいボリューム構造をゼロから構築します。さらに、ボリューム構造が破損している場合には（ボリューム構造テストで報告された場合など）、再構築を行い問題を解決できる場合もあります。

「ツール」カテゴリから「ボリューム再構築」を選択し「ボリューム再構築の設定」画面を表示します。



ボリュームリストから、再構築したいボリュームを選択します。



ボリュームの再構築を行うには、そのボリュームをアンマウントする必要があります。このため、現在の起動ボリュームにはボリュームの再構築は行えません。起動ボリュームの再構築を行うには、コンピュータを再起動して、TechTool ProをeDriveやTechTool Pro DVDなどの別のボリュームから実行してください。



ボリュームの再構築を行う前に、可能であれば大切なデータのバックアップを行ってください。バックアップが行えない場合には、TechTool Proのデータリカバリツールの使用を検討してください。TechTool Proは破損したボリュームを修復するように最善を尽くしますが、修復の度合いは破損の大きさと深刻さに依存します。修復が問題を悪化させ、その後の復旧が更なる問題を引き起こす可能性も充分あります。

「ボリューム再構築を実行」ボタンをクリックして、ボリュームの再構築を開始します。再構築状況がステージに表示されます。



ボリューム再構築を停止したい場合には、ステージの右側に表示されている「停止」ボタンをクリックします。再構築を終了し、元のボリューム構造に戻します。

TechTool Pro でボリューム構造を再構築できる場合には、技術比較画面が表示されます。



技術比較データには、元のディレクトリと、新しく作成されるディレクトリの重要な技術情報が表示されます。この中には、フォルダやファイルの総数など、詳細な情報があり、ディレクトリの再構築を行うかどうかを決める手助けになります。ディレクトリ間の違いは色で表示されます。緑は正常の変化、赤は問題を含んでいる可能性のある変更を示します。「置き換え」ボタンをクリックすると、元のディレクトリを新しく再構築したもので置き換えます。「キャンセル」ボタンをクリックすると、元のディレクトリに戻します。



技術比較データ内に赤く表示された箇所がある場合、再構築を行う前に「キャンセル」ボタンを押して、大切なデータをバックアップしておくことをお勧めします。不正な再構築は通常、ボリュームの再初期化とデータの修復が必要になります。



ファイル最適化

ファイル最適化は、Mac の日々のメンテナンス作業の一つとして活用するとよいでしょう。断片化されたドライブが Mac に問題を起すことはありませんが、パフォーマンスが低下する原因になります。

ボリュームでファイルのデータの書き込みと削除が繰り返し行くと、ドライブ内の連続した空きスペースが少なくなります。ファイルは、ボリューム上の空きスペースのあるところにならどこにでも配置されます。あるファイルを保存するのに十分な一続きの空きエリアがない場合、ファイルは分割して保存されます。結果としてファイルの断片があちこちに配置されることになります。この状態は見えないので、ファイルは1つの完結した論理アイテムのように見えますが、多くの場合、実際にはいくつもの断片に分割されてディスク中に散らばっています。断片化はボリューム上のファイルへのアクセス速度に影響します。ファイルの読み書きの速度が低下し、最適な動作が実現できなくなります。ファイル最適化はボリューム上の個々のファイルの断片化を解消します。

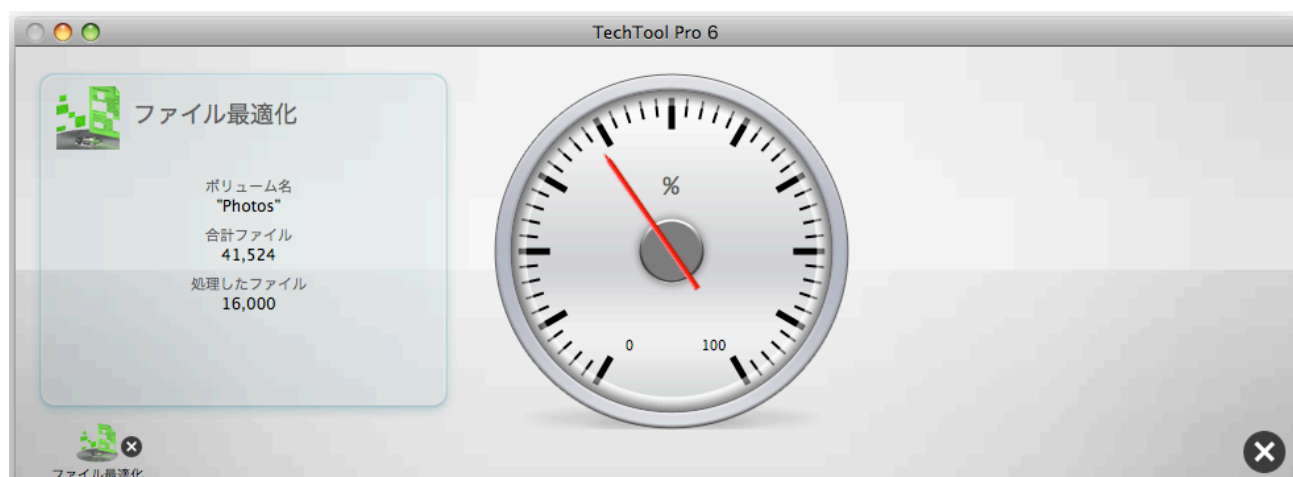
「ツール」カテゴリから「ファイル最適化」を選択し「ファイル最適化の設定」画面を表示します。



左側のボリュームリストから、検査または最適化を行いたいボリュームを選択します。「最適化をプレビュー」ボタンをクリックすると、選択されたボリュームの断片化量が表示されます。これが終わると、ステージの右側に断片化されているファイルのサイズと名前、断片化されているファイルの合計が表示されます。リスト内のファイル名をクリックすると、そのファイルのフルパスが表示され、「Finder に表示」ボタンをクリックすると、選択されているファイルが Finder に表示されます。



「ファイルの最適化を実行」ボタンをクリックすると、選択されているボリュームの断片化されたファイルの再配置を行います。再配置中の進行状況がステージに表示されます。



起動ボリュームに対してファイルの最適化を行うと、使用されていないファイルだけを再配置します。



最適化を行う前に、ボリューム構造テストを行って、ディスクのディレクトリが破損していないことを確認してください。最適化は、いくつかのファイルをドライブのあちこちに移動します。ボリュームのディレクトリに不具合があると、ファイルが移動されるごとに不具合が悪化することがあります。些細なボリュームの問題が広がって深刻な問題となり、データ損失につながる可能性があります。

ファイル最適化には非常に時間がかかります。場合によっては完了までに数時間かかる場合もあります（一日の終わりに開始して一晩中実行させても良いかもしれません）。「停止」ボタンをクリックすると、最適化の処理を停止できます。このボタンをクリックすると、TechTool Pro は作業中のファイルの再配置を終了し作業を停止します。



最適化を行っている時に TechTool Pro を強制終了させないでください。最適化中の予期せぬ終了はファイルを破損させる可能性があります。

ボリューム全体の最適化、すべてのファイルを再配置し空き領域に集約するには、「ボリューム最適化」を行ってください。



ボリューム最適化

ボリューム最適化は、Mac の日々のメンテナンス作業の一つとして活用するとよいでしょう。断片化されたドライブが Mac に問題を起こすことはありませんが、パフォーマンスが低下する原因になります。

ファイルがボリュームに書き込まれると、ファイルはディスク内に散らばって配置されます。Mac のファイルシステムは、時々スワップ領域などの操作を実行するために、連続した空き領域が必要となる場合があります。この作業を行えないと、システムのパフォーマンスに影響を与えます。ボリューム最適化では、空き領域と使用領域をグラフで表示し、空き領域を集約します。

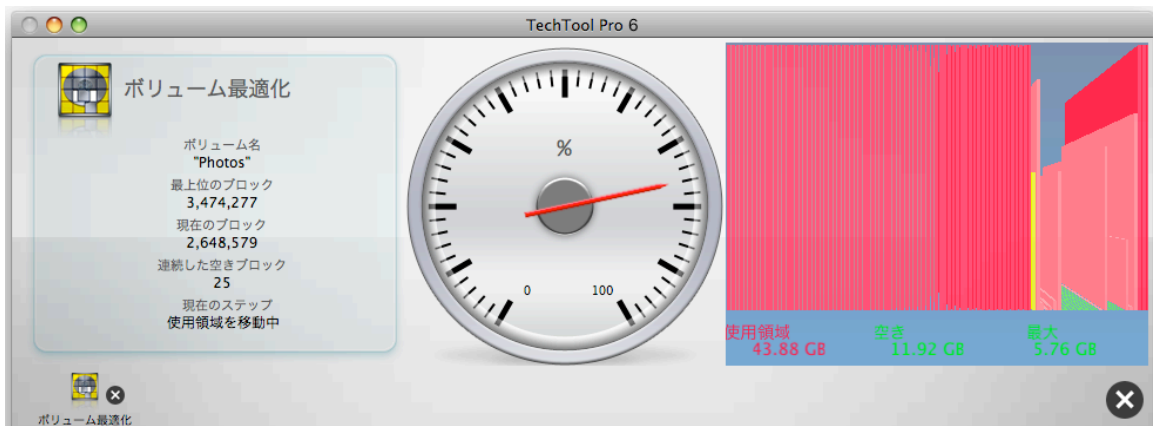
「ツール」カテゴリから「ボリューム最適化」を選択し「ボリューム最適化の設定」を表示します。



左側のボリュームリストから検査または最適化するボリュームを選択します。「最適化プレビュー」ボタンをクリックすると、ステージにボリュームの情報と使用状況がグラフで表示されます。



「ボリューム最適化を実行」ボタンをクリックして、選択されたボリュームの最適化を実行します。空き領域が再配置される進行状況がステージに表示されます。



ステージにはデータの分布状況と空き領域が棒グラフで表示されます。高いグラフがより多くのデータをドライブ中のその位置で保持していることを表します。最適化が進むと、現在最適化されている位置が黄色の棒グラフで点滅します。ボリューム最適化は、すべてのデータをボリュームの最初のエリアに移動し、すべての空き領域を後ろのエリアに移動します。



ボリューム最適化を行うには、そのボリュームをアウンマウントする必要があります。このため、起動ボリュームを最適化することはできません。起動ボリュームの最適化を行うには、コンピュータを再起動して、eDrive などからプログラムを実行してください。



最適化を行う前に、ボリューム構造テストを行って、ディスクのディレクトリが破損していないことを確認してください。破損したボリュームの最適化を行うと、断片化されたファイルがハードディスク内を移動するため、些細なボリュームの問題が広がる可能性があります。

ボリューム最適化には非常に時間がかかります。場合によっては完了までに数時間かかる場合もあります（一日の終わりに開始して一晩中実行させても良いかもしれません）。「停止」ボタンをクリックすると、最適化の処理を停止できます。このボタンをクリックすると、TechTool Pro はファイルの再配置を終了し作業を停止します。



最適化を行っている時に TechTool Pro を強制終了させないでください。最適化中の予期せぬ終了は、深刻なディレクトリ破損を引き起こす可能性があります。



ボリュームクローン

TechTool Pro には、ディスク全体の複製クローン機能、またはディスクのすべてのファイルをバックアップドライブにコピーし、その後の変更されたファイルの同期を行うファイル同期クローン機能が搭載されました。もしクローン作成元として選択したディスクが起動ボリュームであった場合には、作成されたクローンからの起動も可能になります。また、起動ボリュームをディスクイメージとして作成した場合には、Apple のディスクユーティリティ (/アプリケーション/ユーティリティ/ フォルダにあります) を使って、ディスクに復元できます。復元したドライブからも起動可能になります。クローンを作成することにより、オリジナルボリューム上でファイルを無くしてしまった場合、クローンから復元できる可能性が高まります。

クローンをディスクイメージに作成するメリットは、外部ハードドライブを所有する、またはパーティションを作成する必要がなく、ハードドライブに十分な空き領域があれば良いという点です。イメージ作成後、他のデバイスが利用可能になった時点でイメージをコピーし、複製の場所で保管できます。



ボリュームクローンは Mac OS X 10.5 移行で利用できます。

複製クローン



複製クローンを作成するには、ドロップダウンメニューから「複製クローン」を選択します。コピー元のサイズより大きな容量を持つディスク、またはパーティションがコピー先として表示されます。

「コピーを検証」チェックボックスを選択すると、コピー終了後に、コピー先ボリュームに対して検証処理を行います。

「コピー先名を復元」チェックボックスを選択すると、コピー先ボリューム名をオリジナルのボリューム名に復元します。チェックボックスを外すと、コピー元のボリューム名が使われます。

ファイル同期クローン



ファイル同期クローンも利用できます。ファイル同期クローンを選択すると、二回目以降に行う同期では、追加されたファイル、または変更されたファイルのみがコピーされるようになります。このため、コピー先ボリュームを消去する必要がなくなります。

「新しいファイルは無視」チェックボックスを選択すると、コピー先ボリュームにある新しいファイルは無視します。最後の同期以降で変更されたコピー先ボリュームのファイルは置き換えられません。ファイルサイズが異なる場合のみ、コピー先のファイルは置き換えられます。

「所有権を有効」チェックボックスを選択すると、コピー元ボリュームの所有権をコピー先ボリュームにコピーします。これにより、同期終了後にコピー先ボリュームが起動可能になります。チェックボックスを外すと、現在のユーザとグループの設定が使用されます。

ディスクイメージクローン



ディスクイメージクローンを作成するには、コピー元を選択して、ディスクイメージの種類を選択します。「ディスクイメージにクローン…」をクリックすると、ダイアログボックスが表示され、ディスクイメージを保存する場所を指定します。その後、TechTool Pro はコピー元ドライブの内容を .dmg ファイルにコピーします。作成された .dmg ファイルをダブルクリックすると、イメージがマウントされ、ファイルやフォルダなどにアクセスできるようになります。



クローンを作成するコピー先ボリュームには、ファイルがないことを必ず確認してください。クローン作成時にはコピー先ボリュームのすべてのファイルが消去されます。



データリカバリ

TechTool Pro のデータリカバリは、誤って削除してしまったファイル/フォルダの復旧、デスクトップにマウントできない破損したボリューム内のファイル/フォルダの復旧を行うために設計されています。データリカバリは、バックアップしていない個人データの復旧に使用し、アプリケーションまたはシステムファイルの復旧には使用しないでください。これらのファイルはオリジナルから復元してください。

データ復旧のオプションは、TechTool Pro のディレクトリバックアップに保存されたデータとゴミ箱の履歴に連動して動作します。ディレクトリバックアップはボリュームのディレクトリのバックアップです。その中には、TechTool Pro がファイルを素早く見つけ出し、消失したボリュームを元の状態に戻すために重要なファイル位置データがあります。ゴミ箱の履歴は、削除されたファイルの場所の記録です。ファイルが上書きされていなければ、TechTool Pro では、これらの情報をもとに、削除されたファイルの復旧を試みます。ディレクトリバックアップとゴミ箱の履歴はシステム環境設定の TechTool Protection パネルから設定できます。これらの機能を有効にすると、データ復旧の確立が飛躍的に向上するため、有効にすることをお勧めします。また、問題に遭遇する前に保護機能が無効になっていた場合でも、ディレクトリデータでドライブ全体をスキャンすることで、破損したドライブからファイルの復旧を試みます。

TechTool Pro のデータリカバリは、以下の3つのオプションで構成されています。

- 保護 — 以前に保存されたディレクトリバックアップファイルからファイル/フォルダを復旧します。
- ドライブ — ディレクトリデータからファイル/フォルダを復旧します。
- ゴミ箱 — ゴミ箱から削除されたファイルを復旧します。

これらのオプションについては以下で説明します。

保護

TechTool Protection で、ボリュームへのディレクトリバックアップファイルを保存するように設定しておく、この保護オプションを使用して、破損したボリュームからファイルやフォルダの復旧を試みることができます。

データリカバリの設定を表示するには、「ツール」カテゴリから「データリカバリ」を選択して、「保護」タブをクリックします。



設定ウインドウの左側には、ディレクトリバックアップリストが表示されます。ボリューム名リストの下に、認識されているボリュームと関連付けられたディレクトリバックアップファイルと一緒にリストされます。ディレクトリバックアップファイルは作成された日付と時間で識別されます。新しいディレクトリバックアップファイルの方が直近の状態を最も正確に記録しているため、通常は一番新しいディレクトリバックアップファイルを選択します。TechTool Protection は 1 つのボリュームに最大で 3 つのディレクトリバックアップファイルを保存できます。古い方が不要な場合には削除してもかまいません。



ボリュームがひどく破損している場合、ディレクトリバックアップファイルを読み込むことができず、データリカバリのリストに表示されない場合があります。このような場合には、「ドライブ」タブでハードドライブ全体を検索してください。

データをリカバリするボリュームを選択したら、設定ウインドウの右側の検索オプションを入力します。「検索するフォルダ名またはファイル名」フィールドに検索文字列を入力します（検索は大文字と小文字を区別しません）。以下の 4 つから検索条件を指定できます。

- 「を含む」－ 入力された文字列を含むファイル/フォルダ名を検索します。
- 「で始まる」－ 入力された文字列で始まるファイル/フォルダ名を検索します。
- 「語句全体」－ 入力された文字列を一致するファイル/フォルダ名を検索します。
- 「で終わる」－ 入力された文字列で終わるファイル/フォルダ名を検索します。



検索条件で「語句全体」を選択する場合は、拡張子も含めて入力してください。ファイル拡張子とはファイル名の後のピリオドに続く3から4文字のことです（Finderで非表示になっていることもあります）。ファイル拡張子が分からない場合には、検索条件に「を含む」を使用してください。

検索を開始すると進行状況がステージに表示されます。検索が完了すると、検索条件に合ったファイル/フォルダとそれらに関する情報がデータリカバリウインドウに表示されます。

データリカバリ						
5023 項目		並び替え: 日付		復元		
名前	日付	ID	サイズ	作成日	変更日	ボリューム
00000000e3aa9af	2009/02/21 22:15	314768594	27.4 KB	2009/02/22 0:03	2009/02/22 0:19	Macintosh HD
00002d20aa	2009/02/21 22:15	750668	16.0	2007/04/04 17:18	2007/04/04 17:18	Macintosh HD
0070b407-c...cc8aa36.htm	2009/02/21 22:15	1396231	10.5 KB	2007/11/14 12:45	2007/11/14 12:45	Macintosh HD
008253FE-5...5AA9D473F	2009/02/21 22:15	795912	70.2 KB	2007/09/06 10:14	2007/09/06 10:14	Macintosh HD
01AA1089-...2F-.icalevent	2009/02/21 22:15	770545	353.0	2007/09/11 14:55	2007/09/11 14:55	Macintosh HD
0238AAD9-...06658D7820	2009/02/21 22:15	796342	7.6 KB	2007/09/13 13:50	2007/09/13 13:50	Macintosh HD
031B53CA-...%2F-.icaltodo	2009/02/21 22:15	770554	357.0	2007/09/11 14:55	2007/09/11 14:55	Macintosh HD
034803B4-7...C91C983AA	2009/02/21 22:15	795917	9.6 KB	2007/09/06 10:13	2007/09/06 10:13	Macintosh HD
037B648C-...E33EAAF3.jpg	2009/02/21 22:15	707030	5.1 KB	2007/03/31 14:29	2007/03/31 14:29	Macintosh HD
045IIVUHA...AAOECEID3K	2009/02/21 22:15	1868230	307.0	2007/07/09 14:11	2007/07/09 14:11	Macintosh HD
045IIVUHA...AAOECEID3K	2009/02/21 22:15	1871474	307.0	2007/07/13 18:04	2007/07/13 18:04	Macintosh HD
05baabd87c...00.img.plist	2009/02/21 22:15	760142	190.0	2007/04/04 16:16	2007/04/04 16:16	Macintosh HD
05baabd87cc22800.plist	2009/02/21 22:15	760143	1.2 KB	2007/04/04 16:16	2007/04/04 16:16	Macintosh HD
0821C6AA-...Person.abcdp	2009/02/21 22:15	182542040	917.0	2008/11/11 22:46	2008/11/30 22:32	Macintosh HD
082F5F4E-6...erson.abcdp	2009/02/21 22:15	182542041	1.3 KB	2008/11/11 22:46	2008/11/30 22:56	Macintosh HD
08421ECD-...2F-.icalevent	2009/02/21 22:15	770567	397.0	2007/09/11 14:55	2007/09/11 14:55	Macintosh HD
0aa7a4aa-5...443884.htm	2009/02/21 22:15	1396245	6.4 KB	2007/11/14 12:45	2007/11/14 12:45	Macintosh HD
0B1FA49230...00760C2A3	2009/02/21 22:15	237867	8.7 KB	2007/09/24 8:08	2007/09/24 8:08	Macintosh HD
0B1FA49230...1C6F537C4	2009/02/21 22:15	237868	6.8 KB	2007/09/24 8:08	2007/09/24 8:08	Macintosh HD
0B1FA49230...32FD187D9	2009/02/21 22:15	237874	24.3 KB	2007/09/24 8:08	2007/09/24 8:08	Macintosh HD
0B1FA49230...32FD187D9	2009/02/21 22:15	223335	243.0	2007/09/24 8:23	2007/09/24 8:23	Macintosh HD
0B1FA49230...94A8B5AEE6	2009/02/21 22:15	237875	24.1 KB	2007/09/24 8:08	2007/09/24 8:08	Macintosh HD
0B1FA49230...2230D35D9	2009/02/21 22:15	237876	21.1 KB	2007/09/24 8:08	2007/09/24 8:08	Macintosh HD

リストからファイル、またはフォルダを選択します。黒字で表示されている項目は、ボリュームに存在しているため Finder で表示可能です。「表示」ボタンをク

リックすると Finder に表示されます。赤字で表示されている項目は Finder で表示することはできません（項目が削除されている、またはボリュームがマウントされていない、などが考えられます）。このような場合には、「復元」ボタンをクリックすると、デスクトップ上の「TechTool Pro 復旧されたファイル」というフォルダが作成され、ファイルがコピーされます。ファイルは復旧した日付と時間の名前がついたサブフォルダに配置されます（DVD から起動している場合には、「ファイルの保存」ダイアログが表示され、保存するフォルダを指定します）。



ディレクトリバックアップファイルは、現在より前のある時点で作成されたボリューム構造の複製で、ファイル/フォルダの位置情報が変更されていることもあります。このような場合、復元されたファイルは破損した状態になります。復元されたファイルを開いてファイルの内容が正しいことを確認してください。

ドライブ

データリカバリのオプションを使用して、ディレクトリバックアップファイルが利用できないボリュームのファイル/フォルダの復元を行います。ディレクトリバックアップファイルが利用できないため、ハードドライブ全体（個々のボリュームだけではなく）を検索する必要があり、時間がかかります。

データリカバリドライブ設定ウィンドウを表示するには、「ツール」カテゴリから「データリカバリ」を選択して、「ドライブ」タブをクリックします。



設定ウィンドウの左側はドライブリストです。認識されているドライブがリストされます。

データを復元するボリュームを選択し、設定ウィンドウの右側にある検索条件を選択します。「検索するフォルダまたはファイル名」フィールドに検索文字列を入力し（大文字と小文字は区別されません）、以下の4つから検索条件を選択します。

- ・ 「を含む」－ 入力された文字列を含むファイル/フォルダ名を検索します。
- ・ 「で始まる」－ 入力された文字列で始まるファイル/フォルダ名を検索します。
- ・ 「語句全体」－ 入力された文字列を一致するファイル/フォルダ名を検索します。
- ・ 「で終わる」－ 入力された文字列で終わるファイル/フォルダ名を検索します。



検索条件で「語句全体」を選択する場合は、拡張子も含めて入力してください。ファイル拡張子とはファイル名の後のピリオドに続く3から4文字のことです（Finderで非表示になっていることもあります）。ファイル拡張子が分からない場合には、検索条件に「を含む」を使用してください。

検索を開始すると進行状況がステージに表示されます。検索が完了すると、検索条件に合ったファイル/フォルダとそれらに関する情報がデータリカバリウィンドウに表示されます。

データリカバリ						
5023 項目 並び替え: 日付						
名前	日付	ID	サイズ	作成日	変更日	ボリューム
00000000e3aa9af	2009/02/21 22:15	314768594	27.4 KB	2009/02/22 0:03	2009/02/22 0:19	Macintosh HD
00002d20aa	2009/02/21 22:15	750668	16.0	2007/04/04 17:18	2007/04/04 17:18	Macintosh HD
0070b407-c...cc8aa36.htm	2009/02/21 22:15	1396231	10.5 KB	2007/11/14 12:45	2007/11/14 12:45	Macintosh HD
008253FE-5...5AA9D473F	2009/02/21 22:15	795912	70.2 KB	2007/09/06 10:14	2007/09/06 10:14	Macintosh HD
01AA1089-...2F-.icalevent	2009/02/21 22:15	770545	353.0	2007/09/11 14:55	2007/09/11 14:55	Macintosh HD
0238AAD9-...06658D7820	2009/02/21 22:15	796342	7.6 KB	2007/09/13 13:50	2007/09/13 13:50	Macintosh HD
031B53CA-...%2F-.icaltodo	2009/02/21 22:15	770554	357.0	2007/09/11 14:55	2007/09/11 14:55	Macintosh HD
034803B4-7...C91C983AA	2009/02/21 22:15	795917	9.6 KB	2007/09/06 10:13	2007/09/06 10:13	Macintosh HD
037B648C-...E33EAAF3.jpg	2009/02/21 22:15	707030	5.1 KB	2007/03/31 14:29	2007/03/31 14:29	Macintosh HD
045IWVUHA...AAOECEID3K	2009/02/21 22:15	1868230	307.0	2007/07/09 14:11	2007/07/09 14:11	Macintosh HD
045IWVUHA...AAOECEID3K	2009/02/21 22:15	1871474	307.0	2007/07/13 18:04	2007/07/13 18:04	Macintosh HD
05baabd87c...00.img.plist	2009/02/21 22:15	760142	190.0	2007/04/04 16:16	2007/04/04 16:16	Macintosh HD
05baabd87cc22800.plist	2009/02/21 22:15	760143	1.2 KB	2007/04/04 16:16	2007/04/04 16:16	Macintosh HD
0821C6AA-...Person.abcdp	2009/02/21 22:15	182542040	917.0	2008/11/11 22:46	2008/11/30 22:32	Macintosh HD
082F5F4E-6...erson.abcdp	2009/02/21 22:15	182542041	1.3 KB	2008/11/11 22:46	2008/11/30 22:56	Macintosh HD
08421ECD-...2F-.icalevent	2009/02/21 22:15	770567	397.0	2007/09/11 14:55	2007/09/11 14:55	Macintosh HD
0aa7a4aa-5...443884.htm	2009/02/21 22:15	1396245	6.4 KB	2007/11/14 12:45	2007/11/14 12:45	Macintosh HD
0B1FA49230...00760C2A3	2009/02/21 22:15	237867	8.7 KB	2007/09/24 8:08	2007/09/24 8:08	Macintosh HD
0B1FA49230...1C6F537C4	2009/02/21 22:15	237868	6.8 KB	2007/09/24 8:08	2007/09/24 8:08	Macintosh HD
0B1FA49230...32FD187D9	2009/02/21 22:15	237874	24.3 KB	2007/09/24 8:08	2007/09/24 8:08	Macintosh HD
0B1FA49230...32FD187D9	2009/02/21 22:15	223335	243.0	2007/09/24 8:23	2007/09/24 8:23	Macintosh HD
0B1FA49230...94A8B5AEE6	2009/02/21 22:15	237875	24.1 KB	2007/09/24 8:08	2007/09/24 8:08	Macintosh HD
0B1FA49230...2230D35D9	2009/02/21 22:15	237876	21.1 KB	2007/09/24 8:08	2007/09/24 8:08	Macintosh HD

リストからファイルまたはフォルダを選択します。黒字で表示されている項目は、ボリュームに存在しているため Finder で表示可能です。「表示」ボタンをクリックすると Finder に表示されます。赤字の項目は Finder で表示することはできません（項目が削除されている、またはボリュームがマウントされていない、などが考えられます）。このような場合には、「復元」ボタンをクリックすると、デスクトップ上の「TechTool Pro 復旧されたファイル」というフォルダが作成され、ファイルがコピーされます。ファイルは復旧した日付と時間の名前がついたサブフォルダに配置されます（DVD から起動している場合には、「ファイルの保存」ダイアログが表示され、保存するフォルダを指定します）。

ゴミ箱

データリカバリのオプションを使用して、削除されたファイル/フォルダを復元します。TechTool Protection の「ゴミ箱の履歴」を有効にしておく、指定した日数内に削除されたファイルの復元を試みることができます。「ゴミ箱の履歴」はシステム環境設定の TechTool Protection パネルで設定します。「ゴミ箱の履歴」は現在起動されているシステムによって維持されるため、ファイルを復元するためには、インストールされている TechTool Pro を実行する必要があります。TechTool Pro DVD から起動したときは、利用できません。



Finder の環境設定で「確実にゴミ箱を空にする」が選択されていると、ゴミ箱が空になった時点でファイルが上書きされてしまうため、削除されたファイルを復元することができません。

データリカバリのゴミ箱の設定を表示するには、「ツール」カテゴリから「データリカバリ」を選択して、「ゴミ箱」タブをクリックします。



「ゴミ箱の履歴を表示」ボタンをクリックすると、「ゴミ箱の履歴」ウインドウが表示されます。



名前	ゴミ箱に置かれていた物	ゴミ箱が空になった時	ゴミ箱から移動された物	ID	サイズ	作成日	変更日	ボリューム
Snapz Pro XS... 11-15-57.tiff	12/19/08 12:06:06 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650311	698.4 KB	12/19/08 11:15 AM	12/19/08 11:15 AM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... 11-17-54.tiff	12/19/08 12:06:06 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650329	60.3 KB	12/19/08 11:17 AM	12/19/08 11:17 AM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... 11-54-58.tiff	12/19/08 12:06:06 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650441	656.8 KB	12/19/08 11:22 AM	12/19/08 11:22 AM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... Snapz001.tiff	12/19/08 12:06:06 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650273	63.9 KB	12/19/08 11:12 AM	12/19/08 11:12 AM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... 11-32-55.tiff	12/19/08 12:06:06 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650696	541.9 KB	12/19/08 11:30 AM	12/19/08 11:30 AM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... 11-41-52.tiff	12/19/08 12:06:06 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650786	478.1 KB	12/19/08 11:39 AM	12/19/08 11:39 AM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... 11-44-40.tiff	12/19/08 12:06:06 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650846	58.7 KB	12/19/08 11:42 AM	12/19/08 11:42 AM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... 11-47-07.tiff	12/19/08 12:06:06 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650899	896.2 KB	12/19/08 11:46 AM	12/19/08 11:46 AM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... 11-56-40.tiff	12/19/08 12:06:07 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650966	757.8 KB	12/19/08 11:48 AM	12/19/08 11:48 AM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... 12-06-00.tiff	12/19/08 12:06:07 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7651071	568.2 KB	12/19/08 12:05 PM	12/19/08 12:05 PM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... Snapz002.tiff	12/19/08 12:06:07 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650283	60.7 KB	12/19/08 11:13 AM	12/19/08 11:13 AM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... 11-32-46.tiff	12/19/08 12:06:07 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650727	55.5 KB	12/19/08 11:31 AM	12/19/08 11:31 AM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... Snapz003.tiff	12/19/08 12:06:07 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650287	57.7 KB	12/19/08 11:14 AM	12/19/08 11:14 AM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... Snapz004.tiff	12/19/08 12:06:07 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650731	56.9 KB	12/19/08 11:31 AM	12/19/08 11:31 AM	Macintosh HD
TechTool Pro 5.app	12/19/08 12:06:07 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7042451	586.0	12/11/08 5:19 PM	12/19/08 9:59 AM	Macintosh HD
TechTool Pro... 11-41-56.tiff	12/19/08 12:06:08 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650774	713.8 KB	12/19/08 11:37 AM	12/19/08 11:37 AM	Macintosh HD
TechTool Pro... 11-44-43.tiff	12/19/08 12:06:08 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650855	714.9 KB	12/19/08 11:43 AM	12/19/08 11:43 AM	Macintosh HD
TechTool Pro... 12-06-05.tiff	12/19/08 12:06:08 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7651059	693.8 KB	12/19/08 12:02 PM	12/19/08 12:02 PM	Macintosh HD
TechTool Pro... Snapz002.tiff	12/19/08 12:06:08 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7650353	721.8 KB	12/19/08 11:20 AM	12/19/08 11:20 AM	Macintosh HD
TechTool Protection	12/19/08 12:06:08 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7043313	1.1 GB	12/19/08 10:07 AM	12/19/08 10:08 AM	Macintosh HD
TechTool Protection.prefPane	12/19/08 12:06:08 PM	12/19/08 12:12:07	-----	7043242	1.1 MB	12/18/08 9:55 AM	12/19/08 9:59 AM	Macintosh HD
Snapz Pro XS... Snapz002.tiff	12/19/08 12:12:48 PM	-----	-----	7651140	710.8 KB	12/19/08 12:10 PM	12/19/08 12:10 PM	Macintosh HD
TechTool Pro... Snapz002.tiff	12/19/08 12:12:48 PM	-----	-----	7651125	681.2 KB	12/19/08 12:07 PM	12/19/08 12:07 PM	Macintosh HD

ゴミ箱の履歴で設定された日数の間にゴミ箱に移動されたすべての項目がリストに表示されます。リスト内の項目が黒色で表示されている場合には、ボリュームに存在しているため Finder で表示可能です。「表示」ボタンをクリックすると Finder に表示できます。項目が赤色で表示されている場合には Finder には表示できません（項目が削除されている、またはボリュームがマウントされていない、などが考えられます）。このような場合には、「復元」ボタンをクリックすると、デスクトップ上の「TechTool Pro 復旧されたファイル」というフォルダが作成され、ファイルがコピーされます。



復元されたファイルを開いて、ファイルの内容が正しいことを確認してください。ゴミ箱の履歴はボリュームから削除されたファイルの場所の記録を保持しています。ゴミ箱から削除されたファイルは、上書きされる可能性があり、上書きされたファイルデータは復旧できなくなります。復旧された場合も、多くの場合使用不可能です。



ゴミ箱の履歴は、現在のユーザで削除されたファイルを表示します。他のユーザでファイルを復元したい場合には、別のアカウントで Mac OSX にログインして TechTool Pro を実行してください。

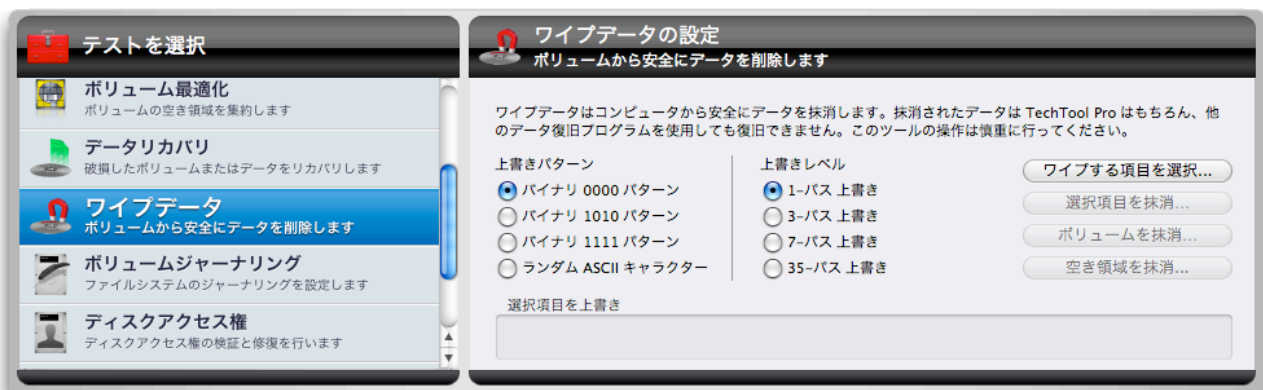


ワイプデータ

ファイルをディスクに保存すると、ディスクのディレクトリに、そのファイルの見出しが作成されます。このディレクトリ見出しは、実際のファイルの断片が保存されている位置情報を保有しています。ファイルをディスクから削除した時は、その見出しのみが削除されます。ファイルデータそのものはドライブ上に残っていて、新しい情報で実際に上書きされるまでは、TechTool Pro のようなデータ復旧ツールを用いて復旧することができます。

セキュリティ上の理由から、ファイルを完全に削除する必要があることもあります。ドライブから永久にデータを削除するには、そのデータを完全に上書きする必要があります。これがデータ消去の目的です。TechTool Pro には安全にデータを上書きするさまざまな方法が用意されています。

「ツール」カテゴリから「ワイプデータ」を選択して「ワイプデータの設定」画面を表示します。



ワイプデータの画面では以下の機能とコントロールが利用できます。

上書きパターン

上書きするパターンを以下の3つから選択します。

- バイナリ 0000 — ファイルをすべてゼロで上書きします。
- バイナリ 1010 — ファイルを1と0で交互に上書きします。

- バイナリ 1111 — ファイルをすべて1で上書きします。
- ランダム ASCII キャラクタ — ファイルを0と1の見せかけのランダムパターンで上書きします。ファイルが消去されたことを隠す際に役立ちます。

上書きレベル

上書きを行う回数を選択します。回数が大きいほどより安全に上書きを行います（また時間を要します）。データを消去するには、通常一度の上書きで十分ですが、一部の政府機関では、安全に削除されたとみなすには、データを特定の回数だけ上書きしなければならないと定められています。以下の上書き回数を設定できます。

- パス上書き
- パス上書き
- 7-パス上書き
- 35-パス上書き (Gutmann Method と呼ばれます)

「ワイプする項目を選択...」 ボタン

ワイプしたい項目を選択します。ファイル、フォルダ、ボリューム全体を選択できます。ボリュームを選択した場合には、ボリューム全体、またはボリュームの未使用の空き領域のいずれかを選択できます。項目を選択すると、項目へのフルパスがボタンの下に表示されます。ワイプを実行する前にワイプする項目を確認してください。

「選択項目を抹消...」 ボタン

選択したファイル、またはフォルダを選択した上書きパターンの回数で上書きします。進行状況がステージに表示されます。

「ボリュームを抹消...」 ボタン

ボリューム全体を、選択した上書きパターンの回数で上書きします。ボリューム内のすべてのデータが抹消されます。進行状況がステージに表示されます。

「空き領域を抹消...」 ボタン

選択したボリュームの未使用の空き領域を、選択した上書きパターンの回数で上書きします。進行状況がステージに表示されます。



データを TechTool Pro のワイプデータ機能で上書きするとデータを復旧させることはできません。ワイプを実行する前に、ワイプデータ設定画面で選択されている項目を確認してから、ワイプを実行してください。



ボリュームジャーナリング

ジャーナリングは、HFS+ファイルシステムの機能で、ファイルシステムを安定させ、データ消失による損失を防ぎます。この機能は、Mac OS X 10.2.2 以降で対応しています。ジャーナリングが有効になっていると、ファイルシステムでは、データに変更が加わるごとに記録されます。コンピュータが不意に停止した場合、ドライブ上の「ジャーナル」に記録されたデータにアクセスし、ファイルシステムを安定した状態に戻すことができます。これにより、ボリューム構造の問題から保護され、異常終了後のボリューム構造テストや修復の負担が減ります。

ジャーナリングは、ファイルの読み込みや書き込みに若干の追加処理を伴います。多くの場合、ジャーナリングが及ぼす影響は、気にならない程度のものです。しかし、容量の大きな動画、画像、オーディオのような高速の伝送速度が必要なファイルについては、ジャーナリングによる信頼性の向上も、データアクセス速度の低下を補えないかもしれません。

ボリュームジャーナリングについての技術的な解説は、本ユーザズガイドの「Mac のファイルシステム」の章を参照してください。

TechTool Pro のボリュームジャーナリングツールは、HFS+ボリュームに対しジャーナリングのオン／オフの切り替えを可能にします。「ツール」カテゴリから「ボリュームジャーナリング」を選択して「ボリュームジャーナリングの設定」画面を表示します。



書き込み可能な HFS+ ボリュームが設定画面にリストされます。リストからボリュームを選択すると、右側のボタンが選択可能になり、ボリュームへのジャーナリングのオン/オフを設定できます。



ディスクアクセス権

Mac オペレーティングシステムは UNIX オペレーティングシステムをベースにしています。UNIX 同様、ファイルシステムではアクセス権を使用します。すべてのファイルとフォルダには、どのユーザが読み/書き/実行を行えるのかといった一連のアクセス権が関連付けられています。アクセス権が何らかの理由により破損してしまうと、さまざまな問題を引き起こすことがあります。ファイルやフォルダが利用できなくなったり、アプリケーションの起動や動作を妨げたり、不正なアクセス権がシステムファイルにあった場合には、Finder で問題を引き起こし、コンピュータが起動しなくなるといった事態になります。

個々のシステムボリュームには Library/Receipts というフォルダがあります。このフォルダには、パッケージファイルが収められていて、個々のパッケージは "Bill of Materials" (拡張子.bom) というファイルを含んでいます。この Bill of Materials ファイルには、関連付けられたパッケージへの正しいアクセス権が保存されています (通常はシステムとアプリケーションパッケージになります)。TechTool Pro では、この情報をもとにアクセス権の検証と修復を行います。アクセス権の修復は簡単で、コンピュータ、またはアプリケーションで発生する問題を解決できます。

ボリュームのアクセス権を検証/修復するには、「ツール」カテゴリから「ディスクアクセス権」を選択します。「ディスクアクセス権の設定」ウィンドウが開きます。



設定ウィンドウでアクセス権を検証/修復したいボリュームを選択し、「ディスクアクセス権を検証」、または「ディスクアクセス権を修復」ボタンをクリックします。アクセス権の検証、または修復が終了すると、不正なアクセス権が設定されているファイル、またはアクセス権が修復されたファイルがレポートウィンドウに表示されます。



ローカルネットワーク

ローカルネットワークツールは、ローカルネットワーク上の Bonjour 互換のデバイスとサービスを表示します。このツールは、すべてのネットワークデバイスの IP アドレスと選択されたデバイスのポート番号をリストします。



iPhone, iPod Touch, iPad 等の携帯デバイスは、Bonjour ネットワークプロトコルに対応していないため、ローカルネットワークには表示されません。



ローカルネットワークは、ネットワークの問題（プリンターの接続、AirMac Expressの接続など）を特定する時に便利です。また、どのポートがオープンになっていて、どのアプリケーションが使用しているかがわかるため、セキュリティ問題を把握する際にも役に立ちます。特定のネットワークデバイスをクリックすると、サービスの一覧と使用しているポート番号が表示されます。

デバイスがアクティブまたは非アクティブの状態になると、緑色のランプが点滅します。デバイスが一端アクティブな状態になると、緑色のランプが点灯し続けます。



ネットワークを切り替えた場合、またはデバイスをネットワークから外した場合には、「履歴を消去」ボタンをクリックしてください。



ビデオ

「ビデオ」では、コンピュータのディスプレイと iSight 互換カメラの検査を行います。「ツール」カテゴリから「ビデオ」を選択すると、「ビデオの設定」画面が開きます。設定画面上部のタブをクリックして「ジオメトリー」または「iSight」を選択します。

ビデオジオメトリー

技術者は、モニタの調整と不良箇所検査にビデオジオメトリーパターンとカラースクリーンを使用します。これはお使いのモニタの色出力確認と、モニタに調整機能がついていた場合の調整にも役立ちます。

「ビデオの設定」画面の「ビデオジオメトリー」タブをクリックして「ジオメトリー設定」画面を表示します。



TechTool Pro には、いくつかのテスト画面があります。それぞれの画面は、色やパターンを示しているボタンで開きます。ボタンを押すとテストパターンが表示されます。もう一度クリックすれば、ビデオ設定画面に戻ります。

「プライマリカラー」で以下の色を選択します。

- 赤 — 画面全体を赤く塗ります。

- 緑 — 画面全体を緑で塗ります。
- 青 — 画面全体を青く塗ります。
- 黄 — 画面全体を黄色く塗ります。
- 白 — 画面全体を白く塗ります。
- 黒 — 画面全体を黒く塗ります。

「アニメーション」チェックボックスで、アニメーションを有効・無効に設定します。

「テストパターン」では以下のパターンが利用できます。

- バー — 連続した垂直なカラーバーを表示します。
- テキスト — 白い画面に黒いテキストの文字を表示します。
- ノイズ — 常に変化しランダムに色付けされたノイズパターンを表示します。
- サイクル — カラーが変化するアニメーションテキストを無地の背景に表示します。

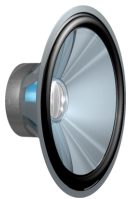
iSight

「iSight」を使って iSight 互換カメラからの出力を表示します。4 つまでのカメラの映像を同時に表示可能なため、個々のカメラの出力を検査できます。カメラが他のソフトウェアで使用される際に映像を送ってこないといった状況になった時に、このツールを使用すると便利です。TechTool Pro は、カメラの信号に直接アクセスします。

iSight ツールを使用するには「ビデオ設定」画面の「iSight」タブをクリックします。



「開始」ボタンをクリックすると、カメラからの出力を表示します。「停止」ボタンで停止します。



オーディオ

Mac OS X は今日のオーディオ解像度のプロフェッショナルスタンダードである 24ビット、96 Khz を備えています。Core Audio は、すべてのオーディオを 32 ビットの浮動小数点データとして管理します。これにより、Mac は将来一般的になるような高度な解像度の他に、24 / 96 も効率的に扱うことができます。また Core Audio は、高度に最適化されたサンプルレートコンバータを提供して、まだこの高解像度の形式を使用していないプログラムでもデータを切らずに Mac OS X に供給できるようにしています。

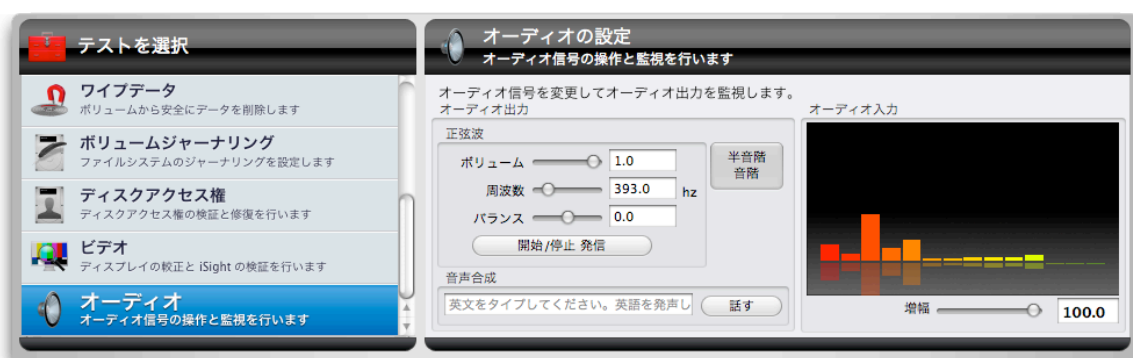
Mac OS X は、デスクトップコンピューティングでの最高のオーディオ処理を備えています。オーディオ処理のもっとも基本的な基準は、スループットレイテンシです。スループットレイテンシは、オーディオ信号が Mac に入り、システムを経由してアプリケーションに到達し、モニタリング装置（スピーカー）に戻るまでに要する時間です。伝統的に Mac OS は、約 10ms という優れたレイテンシを備えています。

Core Audio HAL (Hardware Abstraction Layer) は、アプリケーションと入出力機器との間にきわめて低いレイテンシによる伝達を提供して、以前の手法より相当効率を向上しました。M-Audio 社は自社のオーディオインターフェースから

Mac OS X 上で40サンプルという低レイテンシを報告しています。これは1msのスループットレイテンシに相当し、またこの性能はフルマルチチャンネル環境で享受できるのです。

「オーディオ」ツールでは、コンピュータのオーディオ出力を検査します。「ビデオ」テスト同様、「オーディオ」テストは一定基準に達しているかを検査するものではありません。コンピュータのオーディオ出力が納得できるかを判断するのは、ユーザのみなさんです。オーディオテストを正しく行うには、ステレオ出力が必要です。ステレオ出力がないと、テストはモノラルで行われます。

「ツール」カテゴリから「オーディオ」を選択して「オーディオの設定」画面を表示します。



この画面でオーディオの信号を変化したり出力を監視します。入力と出力はシステム環境設定のサウンドパネルで設定されます。

設定画面の左側はオーディオ出力です。このエリアでさまざまな出力オプションを設定します。「正弦波」のエリアでは正弦波のボリューム、周波数、バランスを設定します。「開始/停止」ボタンで発信を開始/停止します。「正弦波」エリアの右側には「半音階」ボタンがあります。このボタンをクリックすると、一連の半音階の音階を再生します。下部には「音声合成」があります。合成音声を聞くには、フィールドに英語をタイプして「話す」ボタンをクリックします。

設定画面の右側はオーディオの入力信号を表示する動的周波数グラフです。

オーディオの出力を調整することによって、2つの音声チャンネルがバランスがとれているのか、周波数と音量範囲が各チャンネルで生成されているのか、オ

ーディオ回路とスピーカーが正常に動作しているのかといった点を主観的に判断
できます。

第7章：TechTool Pro レポート



TechTool Pro では、テストと使用したツールの内容と、その結果が常に記録されています。この記録は TechTool Pro の「レポート」に保存されます。レポートには、各テストの詳細な結果と問題があった場合のアドバイスが表示されます。TechTool Pro をハードディスクから起動すると、テスト結果は累積保存され、以前のテスト結果も簡単に参照できます。前のテスト結果がわかると問題が起こった時期を確定でき、テクニカルサポートに連絡する必要がある際にも役立ちます。

レポートは並べ替えと検索が行え、特定のテスト、ボリューム、ドライブなどのテスト結果を簡単に探し出すことができます。例えば、失敗したテストのみを表示するといったことが可能です。また、レポートはプリントも可能です。

「レポート」カテゴリを選択して「レポート」ウインドウを表示します。



「レポート」ウインドウは、実行されたテストの詳細を簡単に見られるよう設計されています。レポートウインドウの左側は、標準的なデータベース形式で概要のみを表示する概要エリアです。右側には、概要エリアで選択されている項目の詳細を表示します。

TechTool Pro を複数のコンピュータから実行している場合（外部ハードディスクから起動し実行している場合など）、概要エリアの上部にあるポップダウンメニューから特定のコンピュータを選択して、そのテスト結果を表示できます。

カテゴリの下にあるポップダウンメニューでは以下を選択できます。

- すべてのテスト
- 失敗したテスト
- キャンセルされたテスト
- 最後に行ったテスト
- 最後に失敗したテスト
- 総合的な概要

ポップアップメニューの右側にあるフィールドに文字を入力して特定の項目を検索できます。例えば、"SMART"または"Hitachi"と入力して、それらの文字を含むすべてのテスト結果を表示できます。

ポップアップメニューの下には、選択された条件に合ったすべての結果が以下の4つの項目で表示されます。

- 日時 — テスト/ツールが実行された日時。
- テスト — テスト/ツールの名前。
- 結果 — テスト/ツールの結果（成功、失敗、キャンセルなど）。
- テスト対象 — テスト対象（ボリューム名、ハードドライブ名など）。

リストはカラムのヘッダー部分をクリックすることで、昇順・降順に並べ替えることができます。例えば、「日時」カラムを並べ替えて、特定の日付に行ったテスト結果を見ることができます。また、「テスト対象」カラムを並び替えて、特定のボリュームへ行ったすべてのテストを見つけることができます。カラムはドラッグアンドドロップで順序を並び替えられます。

特定の項目の詳細を表示するには、リストの中の項目をクリックします。右側に詳細が表示されます。詳細には、テストを行った日付、結果、問題があった場合のアドバイスを含んでいます。すべてのテスト/ツールの詳細を見るにはスクロールバーで画面をスクロールしてください。

レポートウィンドウの下部では以下のボタンが用意されています。

- 選択を消去 — 選択されている項目をリストから削除します。
- プリント — 選択されている項目の概要をプリントします。

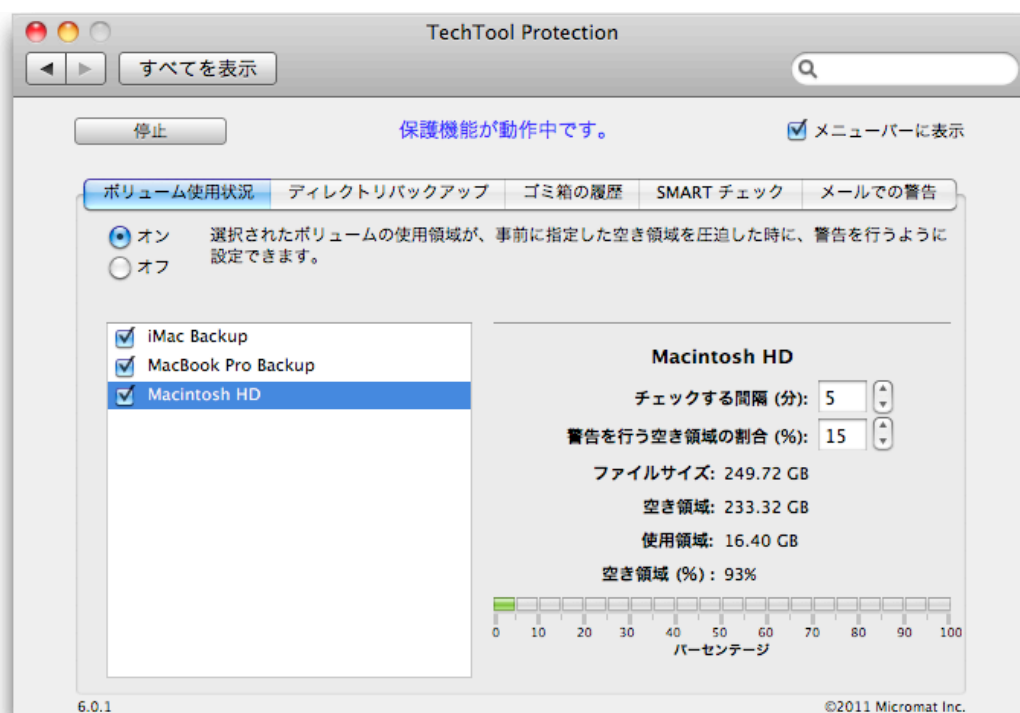


リストで連続した項目を選択するには、[shift] キーを押しながら項目をクリックします。連続しない項目を選択するには、[command] キーを押しながら項目をクリックします。

第 8 章：TechTool Protection



TechTool Proにはコンピュータが稼働中にバックグラウンドで自動実行するように設定可能なさまざまな機能があります。これらの機能はTechTool Protectionによってコントロールされます（TechTool Protectionのインストールと必要要件については、このマニュアルの前の章を参照してください）。TechTool Protectionでは、ボリュームの空き領域の監視、削除されたファイルを後で復旧させるためのポインターの保存、ボリュームディレクトリのバックアップ、ハードドライブのビルトイン SMART ルーチンのチェック、問題が発見された時のEメール送信などの設定を行うことができます。これらの自動実行機能は、システム環境設定のTechTool Protectionパネルで行います。



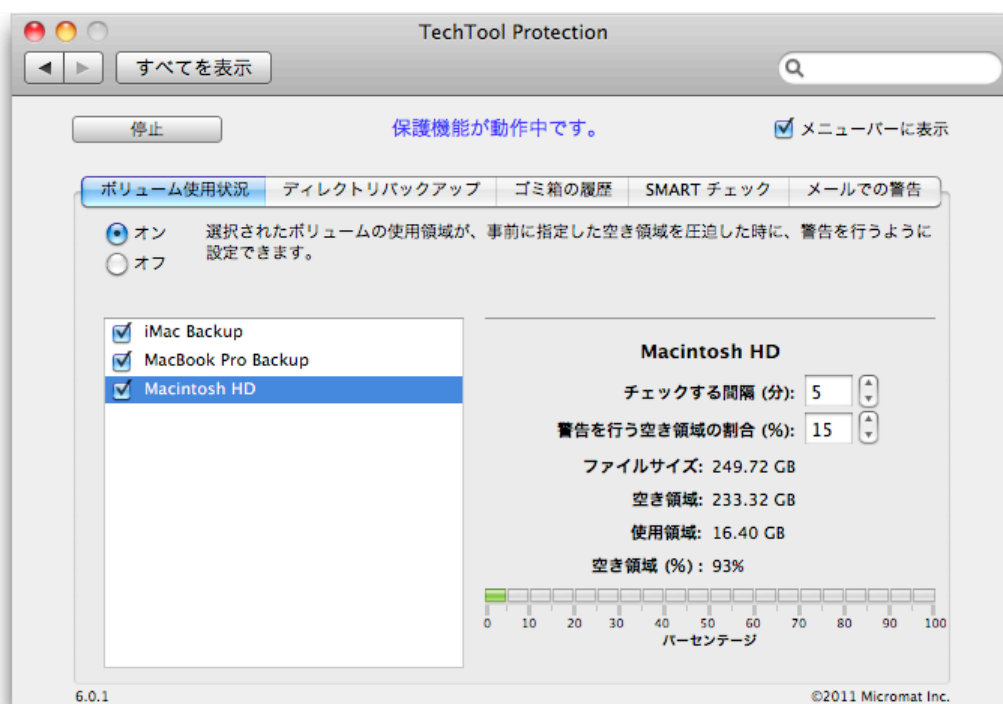
TechTool Protection パネルの左上のボタンはTechTool Protectionの自動バックグラウンドルーチンを実行/停止します。このボタンの右側にあるチェックボックスでTechTool Protectionアイコンをメニューバーに表示する/表示しないを設定できます。アイコンをクリックするとTechTool Protectionの状態を表示するメニューを表示し、TechTool Protection パネルを開くこともできます。

TechTool Protection の各機能について以下で説明します。

ボリューム使用状況

一般的にボリュームの空き領域は全容量の15%以下にならないことをお勧めします。空き領域の不足は深刻なボリューム破損などを引き起こします。TechTool Protection でボリュームの空き領域を監視して、設定した容量を超えた場合に警告を発するように設定できます。

TechTool Protection パネルの「ボリューム使用状況」タブをクリックして、「ボリューム使用状況」画面を表示します。



「オン」ボタンをクリックして「ボリュームの使用状況」オプションを有効にします。監視したいボリュームのチェックボックスをクリックします。

選択したボリュームに対して「警告を行う空き領域の割合」の値を設定します。空き領域を圧迫した場合には、ポップアップメッセージを表示して警告を行います。メールでの警告がオンに設定されていると、設定したアドレスにEメールを送信します。「ボリューム使用状況」の下部のグラフは選択されたボリュームの使用状況を表示します。ボリュームの空き領域が「警告を行う空き領域の割合」で設定された容量を確保できていれば、グラフは緑色で表示されます。設定された容量を圧迫した場合には、赤色で表示されます。

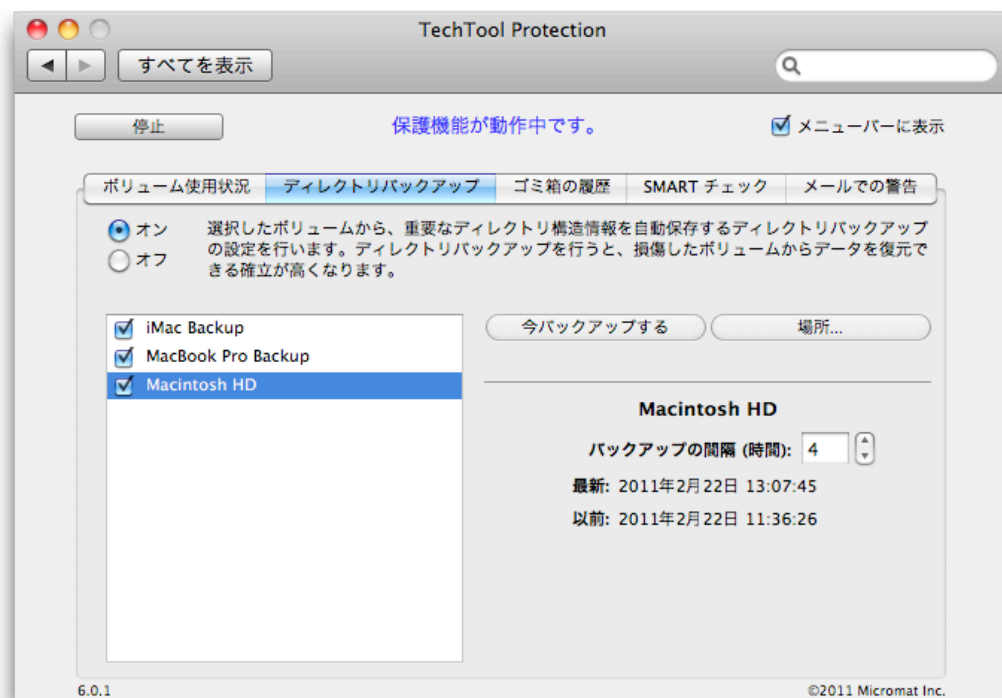
ディレクトリバックアップ

ディレクトリバックアップの目的は、ボリュームのディレクトリ情報を定期的に保存（ディレクトリバックアップファイルと呼ばれます）することです。これらは重要なボリューム構造データのバックアップファイルで不可視になっています。ディレクトリバックアップファイルは、破損したドライブからデータを復元する時に TechTool Pro を支援します。また「ボリューム使用状況」のゴミ箱の履歴が無効になっている状態でファイルを削除してしまった場合にもファイルを復元させます。「ディレクトリバックアップ」画面でボリュームを選択し、どのくらいの頻度で保護するかを設定します。



ディレクトリバックアップファイルは実データのバックアップではなく、ボリューム全体のボリューム構造のバックアップです。少なくとも1つ（できれば2つ）の実データのバックアップを、別の場所に保管しておくことがとても重要です。

TechTool Protection の「ディレクトリバックアップ」タブをクリックして、「ディレクトリバックアップ」画面を表示します。



「オン」ボタンをクリックしてディレクトリバックアップを有効にします。保護したいボリュームのチェックボックスをオンにします。「バックアップの間隔」にバックアップを行う間隔を設定します。選択されているボリュームのディレクトリのバックアップを直ちに行うには、「今バックアップする」ボタンをクリックします。ディレクトリバックアップを複数の場所に保存する場合には、「場所...」ボタンをクリックして、ディレクトリバックアップを行う場所を追加します。

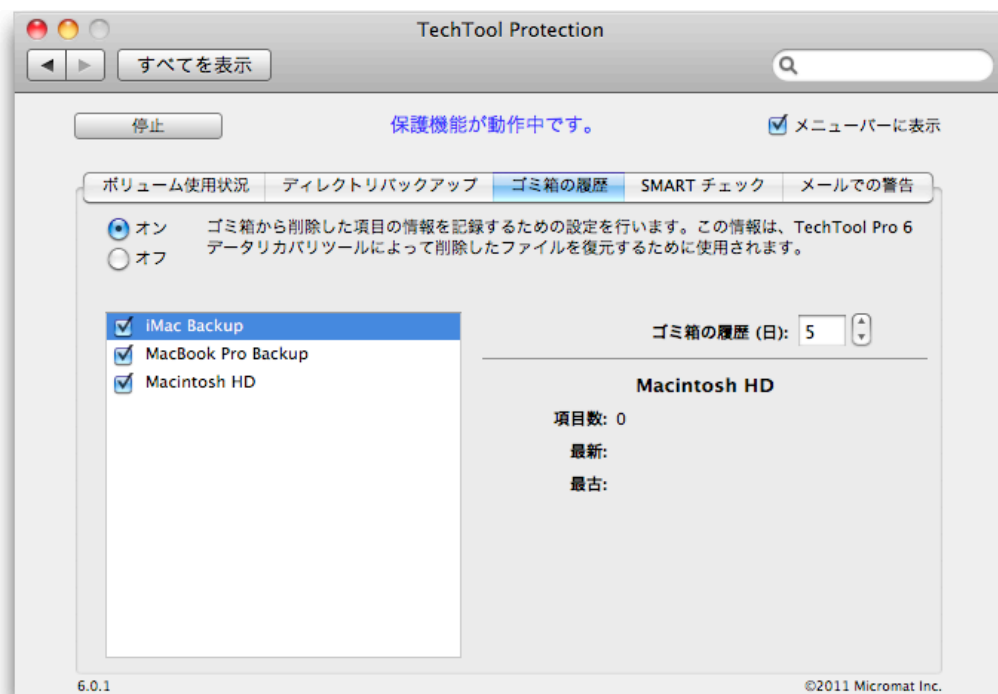
「最新」と「以前」のフィールドには選択されたボリュームに対して行った最後の2つのバックアップの日付が表示されます。TechTool Pro は1 ボリュームに対して3つまでのディレクトリバックアップを保存できます。新しいディレクトリバックアップが作成されると、一番古いものが削除されます。



ボリューム名は個々にユニークなものにしてください。これは特にリムーバブルメディアでは大切なことです。ディレクトリバックアップファイルはボリューム名を識別子として使用します。

ゴミ箱の履歴

TechTool Protection では、設定された期間の間、ゴミ箱から削除されたファイルへのポインターを保存することができます。削除されたファイルが上書きされていない場合には、「ツール」カテゴリの「データリカバリ」ツールを使用して、ファイルの復旧を行うことができます。



「ゴミ箱の履歴 (日)」フィールドに、削除されたファイルの履歴をとる期間 (日数) を設定します。期間内で削除されたファイルが上書きされていないならば、復元することが可能です。復元するには TechTool Pro の「データリカバリ」ツールを使用します。「データリカバリ」ツールの「ゴミ箱」タブから「ゴミ箱の履歴を表示」ボタンをクリックして、「ゴミ箱の履歴」ウィンドウを表示します。復元したいファイルを選択して「復元」ボタンをクリックします。選択されたファイルは、デスクトップ上の「TechTool Pro 復旧されたファイル」という名前のフォルダの中に保存されます。



Finder の環境設定で「確実にゴミ箱を空にする」が選択されていると、ゴミ箱が空になった時点でファイルが上書きされてしまうため、削除されたファイルを復元することができません。また、Finder

メニューの「確実にゴミ箱を空にする…」コマンドを選択しても同様です。

SMARTチェック

TechTool Pro はドライブの SMART レジストリに対し自動で定期的にクエリを発信し、問題が起こりつつあれば警告するよう設定できます。これにより、問題が深刻になる前にドライブの不具合に対する事前の注意を促すことになります。SMART モニタリングについての詳細は、本ユーザズガイドの「第5章テスト」の「SMART チェック」を参照してください。

TechTool Protection パネルの「SMART チェック」タブをクリックして「SMART チェック」画面を表示します。



「オン」ボタンをクリックして SMART チェックを有効にします。自動でチェックしたいボリュームのチェックボックスをオンにします。「チェックする間隔」にチェックを行う時間を設定します。選択されているボリュームの SMART チェ

ックを直ちに行うには、「今チェックする」ボタンをクリックします。「今チェックする」ボタンの下には以下の情報が表示されます。

- ドライブ識別子
- 接続の種類
- 最後のテスト
- 最後の結果
- ボリューム

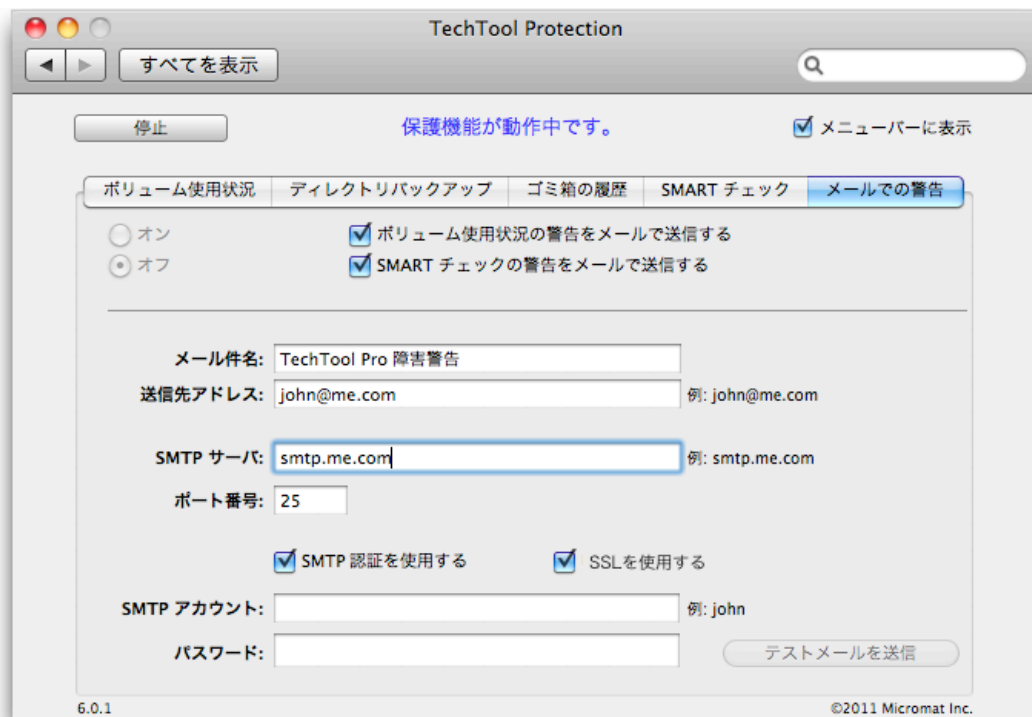
SMART チェックの失敗が発生した時点で、画面にポップアップメッセージを表示して警告を行います。メールでの警告がオンになっていると、設定したアドレスに E メールを送信します。

SMART チェックが失敗した場合には、「テスト」カテゴリの「SMART チェック」を実行して、どの SMART パラメータが失敗したのかの詳細を調べてください。これは問題の深刻さの判断するための手助けとなり、ドライブメーカーにコンタクトする場合には、重要な情報となります。

メールでの警告

TechTool Pro は、ボリュームの使用領域が事前に設定した空き領域を圧迫した場合や、SMART チェックが失敗した場合に自動で E メールを送信し警告を行います。これにより実際にその場になくても、予想される問題について早期に注意を促すことによって、コンピュータを監視できるようにします。通知があれば、重大な不具合が起こる前にデータのバックアップや問題の探索をする十分な時間ができます。

TechTool Protection の「メールでの警告」タブをクリックして「メールでの警告」画面を表示します。



以下のフィールドに必要な情報を設定します。

- メール件名 — 警告メールの件名。初期設定では "TechTool Pro 障害警告" になっています。
- 送信先アドレス — 警告メールが送信されるメールアドレス。
- SMTP サーバ — SMTP サーバ名。
- ポート番号 — 送信メールが使用するポート番号（デフォルトは 25）。
- SMTP 認証を使用する — SMTP メールサーバを使用し認証を行う場合にはチェックします。
- SSL を使用する — Secure Socket Layer を使用する場合にはチェックします。
- SMTP アカウント — SMTP 認証用の SMTP ユーザ名
- パスワード — SMTP 認証用のパスワード

上記の情報を入力後、「オン」ボタンをクリックしてメールでの警告を有効にします。適切なチェックボックスをオンにして、ボリューム使用状況の警告、SMART チェック警告のいずれか、または両方の警告をメールで送信するようにします。

「テストメールを送信」ボタンをクリックすると、設定したアドレスにメールを送信します。メール機能が動作していることを確認し、メールでの警告が正しく設定されていることを確認してください。

メールでの警告が有効で、選択したオプションの警告が発生した時にメールが送信されます。メールは以下の内容を含みます。

- 警告の日付と時間
- コンピュータのユーザ名
- コンピュータの IP アドレス
- コンピュータの Mac OS X バージョン
- 失敗したカテゴリ、ボリュームまたはドライブ名、失敗した種類

第9章：TechTool Proメニューオプション

TechTool Pro を起動すると、メニューバーから以下のオプションが利用できます。

TechTool Pro

このメニューアイテムは、以下のオプションを含んでいます。

TechTool Pro について

このオプションを選択すると、TechTool Pro のバージョン情報、コピーライト情報が表示されます。

アップデートを確認...

このオプションを選択すると Micromat Web サイトに接続し、新しいバージョンのプログラムがあるかお知らせします。



このオプションを利用するには、インターネット接続が必要です。

TechTool Pro を隠す

このオプションを選択すると TechTool Pro ウィンドウを隠します。Dock 上の TechTool Pro アイコンをクリックすると、隠す前の状態にウィンドウを戻します。

TechTool Pro を終了

このオプションを選択すると TechTool Pro を終了します。



TechTool Pro DVD から起動している場合は、プログラムを終了するとコンピュータを再起動するオプションがある言語選択画面に戻ります。コンピュータを通常の起動ドライブから再起動してください。

モード

このオプションで TechTool Pro の3つのカテゴリ、テスト(command+1)、ツール(command+2)、レポート(command+3)を選択します。

ヘルプ

インストールされた TechTool Pro でヘルプを表示します。

第10章：よくある質問

TechTool Pro DVD からコンピュータを起動するにはどうすればよいですか？

TechTool Pro DVD を光学式ドライブに挿入し、コンピュータを再起動して [C] キーを押したままにします。光学式メディアからの起動は、光学式ドライブはハードディスクに比べて遅いため、時間がかかります。TechTool Pro DVD からの起動方法については、DVD 表面に記載されています。コンピュータを DVD から起動するもう 1 つの手段は、起動時に [option] キーを押したままにします。これにより、コンピュータに接続しているすべてのデバイスがスキャンされ、起動項目として選択可能になります。スキャンが終了したら起動項目から DVD アイコンを選択し、右矢印キーを押すか (Power PC Mac)、DVD アイコンの下矢印をクリックします (Intel Mac)。

TechTool Pro で、コンピュータを起動したボリュームのボリューム構造テストができないのはなぜですか？

Mac OS X 10.2以降では、作動中にバックグラウンドで起動ドライブのボリューム構造に変更を加えられるため、起動ボリュームのボリューム構造テストを正確に行うことはできません。そのため TechTool Pro では、起動ボリュームのボリューム構造テストができないようになっています。通常使用している起動ドライブのボリューム構造をテストするには、コンピュータの起動、およびテストの実行を TechTool Pro DVD や eDrive などの別のボリュームで行う必要があります。

TechTool Pro で UFS 方式のボリュームの検査はできますか？

できません。TechTool Pro は Mac 方式 (HFS と HFS+) のボリュームに対してのみ行えます。

TechTool Pro でネットワークボリュームの検査はできますか？

できません。TechTool Pro は、TechTool Pro が作動しているコンピュータに物理的に接続されたドライブのボリュームに対してのみ行えます。

Mac OS X でドライブを初期化するにはどうすればよいですか？

Mac OS X には、ディスクの初期化を行う「ディスクユーティリティ」というユーティリティプログラムが付属しています。ディスクユーティリティは通常、「アプリケーション」フォルダ内の「ユーティリティ」フォルダにあります。ディスクユーティリティを起動後、「消去」オプションを選んでください。不良ブロックを検査し、可能であれば排除するために、「すべてのデータをゼロにする」オプションを選択します。このオプションで初期化を行うと、時間はかかりますがそのドライブは確実によい状態になります。

TechTool Pro をアンインストールするにはどうすればよいですか？

TechTool Pro インストーラには、アンインストールオプションが用意されています。インストーラの3番目の画面の下部にある「カスタマイズ」ボタンをクリックし、「TechTool Pro をアンインストールします」チェックボックスを選択してください。アンインストールを実行すると、TechTool Pro コンポーネントが現在の起動ボリュームから完全に削除されます。

第 1 1 章：参考・ショートカット・便利な機能

Mac OS Xのリリース

Mac OS X 10.0: Cheetah (2001/3/24)
Mac OS X 10.1: Puma (2001/9/25)
Mac OS X 10.2: Jaguar (2002/8/23)
Mac OS X 10.3: Panther (2003/10/24)
Mac OS X 10.4: Tiger (2005/4/29)
Mac OS X 10.5: Leopard (2007/10/26)
Mac OS X 10.6: Snow Leopard (2008/6/9に発表)

TechTool Pro ショートカット

cmd-?: TechTool Pro ヘルプを表示
cmd-H: TechTool Pro を隠す
cmd-Q: TechTool Pro を終了
cmd-1: 「テスト」 カテゴリを選択
cmd-2: 「ツール」 カテゴリを選択
cmd-3: 「レポート」 カテゴリを選択

便利なキー操作(Apple)

cmd-opt-P-R を押しながら起動: PRAM を消去
optw を押しながら起動: 起動デバイスを選択
cmd-S を押しながら起動: シングルユーザモードで起動
cmd-V を押しながら起動: Verbose モードで起動
shift を押しながら起動: セーフモードで起動
shift を押しながらログイン: ユーザの起動対象項目を無視
cmd-opt-O-F を押しながら起動: Open Firmware で起動
cmd-d を押しながら起動: インストール DVD 1が挿入されていれば Apple Hardware Test で起動
cmd-t を押しながら起動: FireWire ターゲットディスクモードで起動

Open Firmware の基本コマンド (PowerPC Macs)

```
reset-nvram  
set-defaults  
reset-all  
eject cd  
dir hd:"(5C)  
dir hd:"(5C)<pathname>  
mac-boot
```

便利なTerminalコマンド（上級者向け）

```
sudo diskutil enableJournal /: ジャーナリングを有効にする  
sudo diskutil disableJournal /: ジャーナリングを無効にする  
sudo sh /etc/daily: システムクリーンアップタスクを毎日実行する  
sudo sh /etc/weekly: システムクリーンアップタスクを毎週実行する  
sudo sh /etc/monthly: システムクリーンアップタスクを毎月実行する  
pwd: 現在作動中のディレクトリのパス名を表示する  
cal: 今月のカレンダーを表示する  
cd: 引数なしでは作動中のディレクトリをユーザのディレクトリに変更する。ディ  
レクトリ名を後ろに入力すると、作動中のディレクトリを特定ディレクトリに変  
更する  
ls: 現在のディレクトリのファイルリストを表示する  
ls -a: 不可視ファイルも含め、すべてのファイルのリストを表示する  
ls -l: リストにさらに情報を載せる  
rm: 後ろにファイル名を入力すると、そのファイルを削除する  
rm -r: 後ろにディレクトリ名を入力すると、そのディレクトリとすべてのサブデ  
ィレクトリを削除する（危険なコマンドなので注意が必要）  
rmdir: 空のディレクトリを削除する  
top: 現在実行中の処理を表示する（「q」を押すと中止）  
sudo: コマンドを後ろに入力すると、一つのコマンドをルートとして実行可能  
kill: プロセス ID を後ろに入力すると、その処理を終了する
```

第 1 2 章：Macのファイルシステム

Mac でさまざまな機能と処理を実行するためには、大量の情報を受け取る準備ができていなければなりません。作業をするたび、システムファイル、アプリケーションプログラム、その他のデータにアクセスする必要があり、これらは、ハードディスク、フロッピーディスク、CD-ROM、DVD、メモリーカードなど、さまざまな物理デバイスに保存されています。Mac のファイルシステムは、これらの物理デバイスとの安定したやり取りを実現するために開発されました。Mac の機能を完全に理解して使いこなすには、Mac ファイルシステムをある程度理解する必要があります。複雑で技術的な内容ですが、ファイルシステムの概要を理解できれば、より詳しい Mac ユーザになれるはずです。予防的なメンテナンスとバックアップの重要性がよく分かり、問題が発生した際に、コンピュータやドライブで何が起きているのかについても、より理解が深まるでしょう。

Mac のファイルシステムは、原型の Hierarchical File System Standard (HFS Standard または HFS) と、新しく作られた Hierarchical File System Extended (HFS Extended、HFS Plus、HFS+) の2つが最もよく知られています。HFS 形式は、400K フロッピーディスクの時代に開発されたファイルシステムで、当時20MB のハードディスクは巨大な保存デバイスと考えられていました。HFS Extended 形式は、大容量ドライブの保存スペースをもっと有効に使用するために開発されたファイルシステムで、現在も Mac で最もよく使用されている形式です。ここでも HFS Extended 形式を中心に扱いますが、詳しく説明する前に、いくつかの基本的な概念を理解しておく必要があります。

コンピュータがさまざまな物理デバイスを用いて安定して動作するよう、いくつかの抽象化が考え出されました。最も基本的なのは「ビット」でしょう。ビットはコンピュータが扱える最小の情報の単位で、0または1で表されます。これは別々のデバイスに異なった方法で保存されます。例えば、ハードディスクドライブでは磁気情報、CD-ROM などではディスク上の小さな穴として保存されます。コンピュータの回路内では、ビットは電気の波です。より大きな情報の固まりはバイトとワードです。1バイトは8ビット、1ワードは2バイトです。コンピュータのすべての情報はビット、バイト、ワードとしてコード化されています。

データ保存デバイスは「ボリューム」と呼ばれる論理デバイスとして抽象化されています。コンピュータはボリューム1つを1つのデバイスとして認識します。ボリュームは実際にはフロッピーディスク、ハードドライブ上の1つのパーティション、DVD などです。1つの物理デバイスは、パーティションで分けられた1個のハードディスクのように、ファイルシステムからは複数ボリュームとして見

えることがあります。データはボリューム上にファイルの形で保存されます。「ファイル」は名前を与えられたビットの集まりです。ファイルにはユーザデータ、システムデータ、プログラム、さらに他のファイルの保存場所を管理する構造までもが保存されます。Mac のファイルは、今日では「データフォーク」と「リソースフォーク」の2つの「フォーク」と呼ばれる部分に分かれています。どちらのフォークもデータを持たない場合もあります。

HFS と HFS Extended のいずれも、データとそのデータを取り出すのに必要な情報がどのようにボリュームに保存されているのかに関する詳細情報です。ボリュームは、「セクタ」と呼ばれる512バイトの論理ブロックに分けられます。セクタはディスク用基盤のセクタから採ったものです。通常のハードディスク基盤は512バイトの基盤に分けられます。セクタはボリューム上で0から最後の1つまで連続した番号をつけられます。ボリューム上のスペースは、アロケーションブロックと呼ばれる一続きのセクタのグループに割り振られます。アロケーションブロックの大きさは、そのボリュームが初期化されたときに設定されます。一般的な大きさは4K（8セクタ）です。この場合、ボリューム上に最大で2の32乗個のアロケーションブロックが作成可能です。ファイルシステムはファイルに対し、「クランプ」という一定サイズのグループのアロケーションブロックを割り当てようとしています。クランプのサイズが大きいほどファイルの断片化は減りますが、ファイルの末端に無駄なスペースができてしまいます。ボリュームでファイルを保存している連続したアロケーションブロックをそのファイルの「エクステンツ」と呼びます。

物理ディスクの最初のブロックにはドライバデスクリプタマップが収められています。これはディスク上のドライバの数と場所に関する情報を保存しています。2番目のブロックからディスクのパーティションマップが記録されます。これは各パーティション（ボリューム）の開始地点、長さ、種類を指定します。パーティションの種類は、HFS+、AU/X、MS-DOS などがあります。パーティションマップはそれ自体がパーティションであり、自身の内容を記録します。デバイスドライバ（ある場合）は通常パーティションマップの後に位置します。パーティションが通常、ディスク容量の残りを占めています。

いくつかのデータ構造がともに作用して、HFS Extend ボリュームのデータを管理しています。データ構造には次のようなものがあります。

- ボリュームヘッダ

- カタログファイル
- エクステンションファイル
- アトリビュートファイル
- アロケーションファイル
- 起動ファイル

これらはそれぞれ、2つ以上のアロケーションブロックで構成されています。

ボリリュームヘッダ

HSF Extended のボリリュームヘッダには、ボリリューム全体に関する重要な情報が収められています。これはHFSボリリュームの「マスターディレクトリブロック(MDB)」に対応しています。ボリリュームヘッダに保存される情報には次のようなものがあります。

- 他のボリリューム構造の中身の場所とサイズ
- ドライブ上のフォルダとファイルの総数
- バイトで示したアロケーションブロックのサイズ
- ボリリューム上のアロケーションブロックの総数
- 隣の空きアロケーションブロック
- データフォーク、リソースフォークのデフォルトクランプサイズ
- 次の未使用カタログ ID ナンバー
- ボリリュームの作成・変更日時
- ファイル、フォルダ名の表示言語
- ボリリュームのライトプロテクトの有無

ボリリュームヘッダは常にボリリュームの2番目のセクタにあります。これは物理ディスク上の、実際の2番目の物理セクタであるとは限らない点に、注意してください。ボリリュームヘッダの情報は非常に重要であるため、そのコピーがボリリュームの最後から2番目のセクタに保管されています。これは「オルタネートボリリュームヘッダ」と呼ばれます。これはアロケーションブロック外に存在可能な数少ないデータの一つです。最後から2番目のセクタがアロケーションブロック外に出た場合、外に保存されることになります。オルタネートボリリュームヘッダは、メインボリリュームヘッダが損傷した場合に、TechTool Pro のようなディスクユーティリティによって使用されます。

ボリュームヘッダは、コンピュータの突然終了やボリュームヘッダが正しく更新されていなかったことにより、壊れる場合があります。また、ボリュームヘッダ内で不良ブロックが生じた場合にも壊れることがあります。ボリュームヘッダとオルタネートボリュームヘッダの両方に異常があった場合、修復は困難になります。ボリュームヘッダの損傷が深刻なものだった場合、通常のソフトウェアが使用するデータにもアクセスできないことがあります。

B ツリー

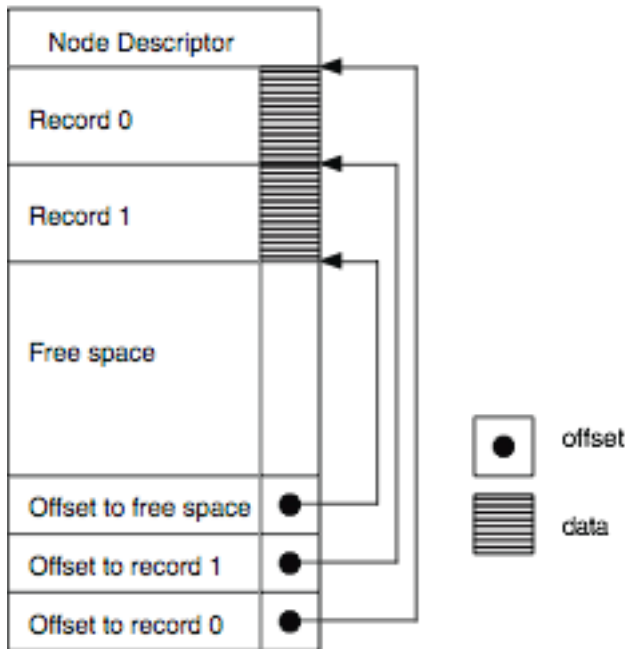
カタログファイル、エクステンツファイル、アトリビュートファイルはすべて情報の保存に B ツリー（バランスツリー）というデータ構造を使用しています。B ツリーは情報を早く取り出せるよう設計されたデータ構造です。ボリューム構造で B ツリーを使用すると、無数のファイルを持つボリューム上でファイルシステムがデータを探しやすくなります。

B ツリーファイルはいくつもの「ノード」を持ち、それぞれのノードは「レコード」を保持しています。レコードには、そのレコードやその他のデータを認識するのに使われる「キー」があります。キーには、固有の順序が割り当てられ、各レコードのキーで検索できる仕組みになっています。データには、そのキーに関連した他のノードやデータへの「ポインタ（リンク）」が含まれます。

B ツリーを構成するノードには以下の4つの種類があります。

- ヘッダノード（ツリーへの入り口）
- マップノード（ヘッダのマップレコードがいっぱいになった場合、アロケーションデータを保存する）
- インデックスノード（ポインタレコードを保存する）
- リーフノード（キーに関連するデータを保存する）

ノードは次のような構造になっています。

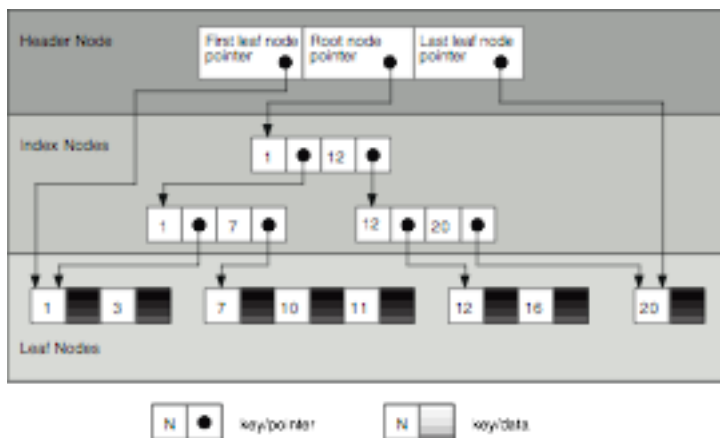


Structure of a Node

ノードデスクリプタはノードの種類、中のレコードの数、ツリーの位置関係を示し、前や次のノードへのリンクを持っています。

B ツリーは以下のような構造になっています。

<<btree.tiff>>



Structure of a B-Tree

この例では、どのキーのレコードでも最大で3つのノードを検索するだけでよいことがよくわかります。

B ツリーへの損傷は、キーフィールド、ポインタフィールド、データフィールドで起こることが考えられます。キーフィールドで損傷が起こった場合、レコードやサブツリー全体が見つけ出せなくなり、インデックスノード（ポインタ）のデータフィールドで起こった場合には、そこにつながっているサブツリーが孤立します。リーフノードのデータフィールドで損傷が起こった場合には、そのキーの実際のデータが不正なものになります。ファイルシステムの損傷の種類は、B ツリーがカタログ、エクステント、アトリビュートデータを持っているか、および破損したノード種類によって決まります。

カタログファイル

ボリューム構造で最も重要なファイルは、カタログファイルです。カタログファイルはボリュームのファイルやフォルダの階層を管理します。カタログファイルの最初のエクステントはボリュームヘッダに保存されます。つまりカタログヘッダ（カタログへの入り口）はボリュームヘッダに保存されるということです。ボリュームヘッダが損傷するとカタログヘッダを見つけることができず、カタログファイルを探し出すこともできなくなることがあります。

カタログファイルのファイルとフォルダは、それぞれ「カタログノード ID (CNID)」という固有の見出しを割り当てられます。ファイルでは「ファイル ID」、フォルダでは「フォルダ ID」となります。各ファイルおよびフォルダの「ペアレント（親）ID」は、それらが入っているフォルダの CNID です。あらかじめ決められている重要な CNID は以下のとおりです。

- 1 — ルートフォルダのペアレント ID
- 2 — ルートフォルダの CNID
- 3 — エクステントファイルの CNID
- 4 — カタログファイルの CNID
- 5 — 不良ブロックファイルの CNID
- 6 — アロケーションファイルの CNID
- 7 — 起動ファイルの CNID
- 8 — アトリビュートファイルの CNID

あらゆる B ツリーレコードは、ファイルシステムがツリーをたどってそのレコードを見つけられるように、順序がついたキーを持っている必要があります。カタログの B ツリーには、2種類のキーがあります。

ファイルおよびフォルダのレコードに対しては、キーはペアレントの CNID と、そのファイルやフォルダの名前を保持します。

スレッドのレコード(リンク)に対しては、キーはそのファイルやフォルダの CNID を保有し、名前は保有しません。

カタログのリーフノードには、以下の4つの種類があります。

- フォルダレコード — 特定フォルダの情報を収める
- ファイルレコード — 特定ファイルの情報を収める
- フォルダスレッドレコード — フォルダをそのペアレントフォルダにリンクする
- ファイルスレッドレコード — ファイルをそのペアレントフォルダにリンクする

カタログフォルダレコードが保有する、さらに重要な情報には、フォルダの CNID、フォルダ内のファイルとフォルダの数、作成日と変更日、バックアップした日付、フォルダの所有権やアクセス権などがあります。

カタログファイルレコードが保有する情報には、ファイルの CNID、作成日と変更日、バックアップした日付、ファイルがロックされているかどうか、各フォークの最初の8エクステントの場所、フォルダの所有権やアクセス権などです。

CNID とファイルやフォルダの名前は、カタログの B ツリー内でその項目を見つけやすくします。カタログファイル内の損傷は、カタログレコードが持つファイルやフォルダ情報の消失や、フォルダ階層でのファイルやフォルダの不正な配置につながる可能性があります。例えば、突然ファイルがその本来のフォルダではなくハードディスクのルートレベルに散乱していた場合、カタログファイルが損傷していると考えられます。

エクステントファイル

ファイルが保存されると、ファイルシステムはそのファイルを保持するためのスペースをボリューム上に割り当てます。このスペースは1つ以上のアロケーションブロックからなっています。隣り合ったアロケーションブロックの集まりはそれぞれ「エクステント」と呼ばれます。カタログファイルにある各ファイルのファイルレコードは、ファイルの各フォークの最初の8エクステントの場所を保持しています。ファイルのフォークを構成する追加、または余りのエクステントの場所は、エクステントファイル（エクステントオーバーフローファイル）によって管理されます。

エクステントファイルは単純な B ツリーとして保存されます。エクステント B ツリーのレコードキーは、ファイルの CNID、フォークの種類（リソースかデータ）、アロケーションブロック内のエクステントまでのオフセットを保持します。それぞれのエクステントの場所は、2つの数字で表されます：エクステントの最初のアロケーションブロックと、そのエクステント内のアロケーションブロックの数です。この情報はエクステントファイルのデータレコードに保存され、ファイルフォークの実際のデータがボリューム上に配置されるようになります。

エクステント B ツリーを検索したとき、キーの情報は、CNID、フォークの種類、オフセットの順に比較されます。そのため、各フォークのエクステントはそれぞれひとまとめにされ、隣り合って配置されます。

エクステントファイルの破損は、ファイルシステムがファイルの一方、または両方のフォークにあるデータ部分の位置を見失うことにつながり、ファイルが壊れることやファイル内に異常なデータが現れることがあります。エクステントファイル自身が場所を定められないと、各ファイルフォークの最初の8エクステントの後ろにあり、カタログファイルに保存されているデータは失われてしまいます。

エクステントファイルは「不良ブロックファイル」という特別なファイルの情報を保持しています。あるセクタに不具合がある、つまりそのセクタがデータを安定して保持できない、とわかった場合、そのセクタを含むアロケーションブロック全体が不良ブロックファイルに追加されます。これにより不良ブロックが占めるスペースはデータの保存に使用されなくなります。

ハードディスク上の不良ブロックは、物理的な不具合を示しています。不良ブロックは「ゼロ書き込み」オプションでドライブを初期化する際に位置が確定されます。また、データがドライブに読み書きされる際にドライブによって発見されることもあります。

不良ブロックファイルは、通常のファイルとは異なり、カタログファイルにレコードを持たず、ヘッダファイルにも参照されません。不良ブロックファイルは、エクステントファイルに見出しとして5の CNID を持ちます。不良ブロックのエクステントはデータフォークとみなされます。不良ブロックがエクステントファイルに入力されると、そのアロケーションブロックはアロケーションファイルに使用済みと記録され、以後そのブロックが使用されるのを防ぎます。エクステントファイルで不良ブロックの位置を管理することで、アロケーションファイルの連続性テストが可能になります。アロケーションファイルで使用済みと記録されている場所は、すべて、あるファイルのエクステントに対応します。

HFS Extended (HFS+) ボリュームが HFS ラッパーに収められていると、HFS Extended ボリュームのすべてのエクステントは HFS ボリュームの不良ブロックファイルに入れられます。これで、HFS Extended に対応していない Mac OS の使用時に HFS ラッパーボリュームがマウントした場合、HFS Extended ボリュームが占めるスペースには書き込めないようにします。

アロケーションファイル

アロケーションファイルはボリュームの各アロケーションブロックがファイルシステムに使用されているかどうかを管理します。これは、各アロケーションブロックが使用されているかどうかを記載した簡潔なリストです。あるアロケーションブロックが未使用とされていた場合、ファイルシステムはそれを新しいファイルのデータを記録する場所に割り当てます。ファイルが削除されると、そのファイルがあったアロケーションブロックは空きスペースとされ、他のデータを記録するのに再利用されます。

HFS ボリュームのアロケーション関連情報は、実際のファイルではなく「ボリュームビットマップ」と呼ばれるボリューム上の特別な場所に保存されます。

アロケーションファイルやボリュームビットマップが損傷すると、ファイルシステムが実際には、データを保存している箇所を他のファイルが使用可能と見なす恐れがあります。この場合、元のファイルのデータは上書きされ、壊れてしまうことがあるかもしれません。使用していない部分が、すでに割り当て済みとされた場合は、そのボリュームが実際に使用可能な量よりも空き容量が少ないと判断されます。

アトリビュートファイル

アトリビュートファイルは将来追加されるファイルフォークに備え、HFS Extended の仕様に加えられました。カタログやエクステンツファイル同様、アトリビュートファイルも B ツリーになるよう定義されています。このファイルは、ボリューム上の各ファイルおよびフォルダの属性を管理します。例えば、そのファイルがロックされているかどうか、などです。

起動ファイル

起動ファイルは、HFS Extended ボリュームからの起動に内蔵 ROM が対応していないシステムが使用するためのものです。起動ファイルの最初の8エクステンツはボリュームヘッダに保存されます。これで、場所を確定しメモリに読み込むのが楽になります。このファイルは、コンピュータの ROM が起動プログラムを決めるのに使用する情報を収めています。ほとんどすべての場合、この情報はいつも使っているシステムを選ぶように設定されます。

HFSラッパー

ほとんどの HFS Extended ボリュームは、HFS ラッパーというロックされた HFS ボリューム内に埋め込まれています。しかし、Mac の最近の機種は「純粋な」HFS Extended（ラッパーのない HFS Extended）形式に対応し始めています。

HFS ラッパーに埋め込まれた HFS Extended ボリュームは、ROM が HFS には対応しているけれども HFS Extended には対応していないコンピュータが、HFS Extended ボリュームから起動できるようにします。さらに、HFS には対応しているけれども HFS Extended には対応していないコンピュータに HFS Extended ボリュームが使用された場合、HFS ラッパーがマウントされて、そのコンピュータが HFS Extended ボリュームに対応していないことを示すメッセージを表示できます。これは HFS Extended が導入されて間もない頃には特に重要でした。当時まだ多くの人々が HFS Extended ボリュームに対応していない Mac OS 8.0 以前の OS を使っていました。Mac OS 8.1 以降のラッパー付き HFS+ ボリュームを使用すると、HFS Extended ボリューム本体がマウントされて HFS ラッパーは見えなくなります。

HFS ラッパーは、不可視で最小限のシステムと Finder のファイルを持っています。ラッパーのルートフォルダは、起動に使用できるよう「blessed」フォルダに設定されています。ラッパーボリュームから起動する際、コンピュータはラッパーボリューム上の特別なシステムから起動手続きを開始し、HFS Extended ボリュームを認識してマウントし、その HFS Extended ボリューム上のシステムから起動を続行します。

HFS ラッパーは、その内容が変更されないようロックされています。これで不注意による損傷から保護しています。ラッパーは通常、

「Where_have_all_my_files_gone?」という名前のテキストファイルを持っています。ラッパー付きの HFS Extended ボリュームが HFS Extended に対応していないコンピュータで使用された場合、HFS ラッパーがマウントしてそのテキストファイルがボリュームに表示されます。そのテキストファイルの内容で、HFS Extended ボリュームが表示されない理由を説明します。

HFS ラッパーが損傷すると、HFS Extended ボリュームにアクセスできなくなったり、コンピュータを起動できなくなったりすることがあります。

ジャーナリング

Mac OS X 10.2.2 は、OS 拡張ファイルシステムにジャーナリングという新しい機能を加えました。ジャーナリングは Mac OS 拡張ファイルシステムへの段階的な発展の一部で、そのファイルシステムの旧バージョンに対する下位互換性があります。

ジャーナリングはファイルシステムをより頑丈にし、データ消失への耐性を高めます。ジャーナリングが有効になっていると、ファイルシステムはデータのやり取りをそれが起こるごとに記録します。お使いのコンピュータが動作中に不具合を起こした場合（クラッシュや停電などの原因が考えられます）、ディスクの読み書きは中断されます。これは、ファイルシステムディレクトリと、保存ファイルの実際の場所や構造との差異を生む恐れがあります。ジャーナリングされていないファイルシステムでは、不意のシャットダウン後もボリュームは壊れたままの状態になっているかもしれません。ジャーナリングが有効にされた場合、コンピュータが再起動した際にファイルシステムは記録された情報を「再生」し、中断された作業を完了することができます。不具合が生じた際バッファされていたわずかなデータの消失はあるかもしれませんが、ファイルシステム自体は安定した状態に戻ります。これにより、ボリューム構造を起動中に修復する必要がないため、コンピュータの再起動がより速くなります。

ジャーナリングはファイルの読み書きに対し多少の手間を必要とします。ほとんどの場合、ジャーナリングによるデータアクセスへの影響は気がつかない程度のもので、容量の大きな動画、画像、オーディオといった高速の転送速度が必要なファイルについては、ジャーナリングによる信頼の向上はデータアクセス速度の低下を埋め合わせられないかもしれません。

第 1 3 章：用語集

AirPort: AirPort は IEEE 802.11 無線ネットワーク規格に Apple 社が付けた名前です。802.11b 規格をもとにしたオリジナルの AirPort は最大通信速度 11 Mbps でした。新型の AirPort Extreme は 802.11g 規格にもとづいており、最大速度は 54 Mbps です。NOTE: AirPort は AirMac の海外での名称です。

Altivec: Altivec はほとんどの PowerPC プロセッサに採用された技術で、ある種の広帯域データ処理機能の能力を向上させています。

Apple Sound Chip: Apple Sound Chip および ASC は、Sony が開発した Apple 向けカスタムサウンドチップです。DAC (Digital to Analog Converter) とされることもあり、ASC は Mac の高度な音質の実現を可能にしています。

ASC: Apple Sound Chip を参照してください。

ASCII: American Standard Code for Information Interchange の略。異なるプログラムや異なるコンピュータが同じように情報を共有できるようにするため、あらゆる数字、文字、その他の記号に割り当てられた ID 番号。標準コードは 8 ビットでコード化された番号。

AT Attachment Packet Interface: これは主に ATAPI として知られている、コンピュータとそれに接続した光学式ドライブやテープドライブとの間の接続方式です。ATAPI は IDE (IDE/ATA をご参照ください) 接続方式に、CD-ROM や DVD、テーププレイヤを制御するのに必要なコマンドを追加したものです。ATAPI は ATA-2 としても知られる Enhanced IDE (EIDE) の一部です。

AT Attachment Standard: これは主に ATA または IDE と呼ばれるコンピュータと大容量データ保存機器との接続方式で、周辺機器がコンピュータとデータを交換する方法を指定した規格です。

下記の表は様々な ATA 規格の最大データ転送率を示したものです。

ATA (オリジナル)	4 Mb/sec
ATA-2	16.6 Mb/sec
ATA-3	16.6 Mb/sec
ATA-4(Ultra ATA/33)	33.3 Mb/sec
ATA-5 (Ultra ATA/66)	66.6 Mb/sec
ATA-6 (Ultra ATA/100)	100.0 Mb/sec

ATA: AT Attachment Standard を参照してください。

ATAPI: AT Attachment Packet Interface を参照してください。

Bit ビット: ビットはコンピュータが保存できる最小の情報の単位です。0または1で表されます。

Booting (起動) : booting という用語は bootstrap (自動の) からとられました。コンピュータが起動してオペレーティングシステムを読み込む手続きです。CD から起動すると、起動と OS の読み込みを CD から行うことになります。

Bundle Bit バンドルビット: バンドルビットは、ほとんどの Mac アプリケーションに存在するリソースです。有効な場合、そのファイルがアイコン情報を持っていることを示します。

Byte バイト: バイトはコンピュータに保存される情報の単位です。1バイトは8ビットで構成されます。ASCII 文字は1バイトから成ります。

Clump クランプ: ファイルに一定の大きさでアロケーションブロックを供給しようとするファイルシステムがクランプです。

CPU: 中央処理装置を参照してください。

CRT: CRT は Cathode Ray Tube (陰極線管、ブラウン管) の略です。ほとんどのコンピュータやテレビ画面で画像を作り出している要素です。

DIMM: Dual Inline Memory Module を参照してください。

Diskette ディスケット: フロッピーディスクやZipディスクとしても知られています。小容量の取り出し可能な記録媒体で、磁気コーティングされた層にデータを記録します。

Driver Descriptor Map ドライバデスクリプタマップ: ドライバデスクリプタマップはディスク上のドライバの数と場所についての情報を保持します。

Dual Inline Memory Module: DIMM あるいは Dual Inline Memory Module は、コンピュータに使われているメモリユニットです。これは小さなプリント基盤に RAM チップを装着したもので、装着や取り外しがしやすいよう DIMM スロットに差し込まれています。

EIDE: Enhanced Integrated Drive Electronics を参照してください。

Enhanced Integrated Drive Electronics: 主に EIDE と呼ばれる、コンピュータと大容量記憶装置との接続方式です。EIDE は IDE を拡張したもので、528 MB より大きなハードドライブが使えるようになっています。また、ハードドライブへのアクセス速度向上、ダイレクトメモリアクセス(DMA)への対応、光学式ドライブやテープドライブも含めた追加のドライブ使用も実現されています。

Ethernet イーサネット: Xerox 社が開発した有名なネットワーク規格です。標準のイーサネットの通信速度は10Mbps、Fast Ethernet の通信速度は100 Mbps または1 Gbps です。

FireWire : FireWire は高速バス規格である IEEE 1394に Apple 社がつけた名前です。最大400Mbps のデータ転送速度を扱うことができ、主にハードディスクドライブやビデオカメラを Mac と接続するのに使われています。Apple が FireWire 800と呼ぶ IEEE 1394b 規格は800Mbps の転送速度を扱えます。

GB: Gigabyte ギガバイトを参照してください。

Gigabyte ギガバイト: 1ギガバイトは1024メガバイトです。

HFS: HFS は Hierarchical Filing System の略で、Mac OS Standard Format としても知られています。Mac 用記憶装置のデータ管理形式です。

HFS+: Macintosh OS Extended Format は Mac に接続される記憶装置のデータ管理方式です。HFS に比べてより多くのファイルに対応し、容量の大きいドライブにデータを保存する際の効率が向上しています。

I/O: input/ output (入出力) の略です。

IDE: Integrated Device Electronics を参照してください。

IEEE: Institute of Electrical and Electronics Engineers 電気電子学会を参照してください。

Institute of Electrical and Electronics Engineers 電気電子学会: IEEE (I トリプル E) と呼ばれる、コンピュータや電子産業で使用される規格を数多く定めている組織です。例えば、AirPort は IEEE 802.11b ネットワーク規格の別名です。

Integrated Device Electronics: 主に IDE と呼ばれる、コンピュータと大容量記憶装置との接続方式です。IDE 機器 (ATA 機器と呼ばれることもあります) は、周辺機器がコンピュータとやり取りする方法を規定した ATA (AT Attachment Standard を参照してください) に適合しています。

Kb: Kilobit キロビット、または1024ビット。

KB: Kilobyte キロバイト、または1024バイト。

Kbps: Kilobits per second (キロビット毎秒) です。

KBps: Kilobytes per second (キロバイト毎秒) です。

LAN: Local Area Network 構内通信網を参照してください。

Local Area Network: Local Area Network (構内通信網、LAN) は近接したコンピュータや周辺機器のグループで構成され、互いに通信できるように接続したものです。Mac は通常 Ethernet か LocalTalk で接続します。

Logical Unit Number: SCSI バスの ID 番号です。

Low-Level Format 低レベルフォーマット、物理フォーマット: 低レベルフォーマットは、ドライブのデータを整理する情報を削除して作成し直します。ドライブのすべてのデータはたいてい消去されます。通常低レベルフォーマットの後には初期化を行います。

LUN: Logical Unit Number を参照してください。

MAC アドレス: Media Access Control address を参照してください。

Mb: Megabit メガビットを参照してください。

Mbps: Megabit per second (メガビット毎秒) です。

MB: Megabyte メガバイトを参照してください。

MBps: Megabytes per second (メガバイト毎秒) です。

MHz: Megahertz メガヘルツを参照してください。

Media Access Control address: Ethernet カードの Media Access Control address (MAC アドレス) は固有の48ビットのアドレスで、メーカーによって直接 Ethernet アダプタハードウェアに割り当てられています。アドレスは 00:00:c0:34:f1:52 のように、コロンで分けられた6つの16進数で構成されます。

Megabit メガビット: 記憶容量の単位です。1メガビットは1,048,576ビットに相当します。

Megabyte メガバイト: 記憶容量の単位です。1メガバイトは1,048,576バイトに相当します。

Megahertz メガヘルツ: 周波数の単位で、100万サイクル毎秒です。

OS: OS は Operating System オペレーティングシステム (基本ソフト) の略です。これは、コンピュータの操作を可能にし、ファイル、周辺機器、プログラム、ネットワークなどを管理するソフトウェアです。

Parameter RAM: PRAM とも呼ばれます。これは Mac にとって不可欠な情報を保持するためのチップです。Mac を終了しても情報を持ち続けられるよう、電池が PRAM に電力を供給しています。このチップは、キーボード設定、マウス設定、起動デバイスなどの情報を収めています。

PCI: Peripheral Components Interconnect の略で、新しい機種 of Mac で標準となっているバスの規格です。NuBus に代わって採用されました。

PRAM: Parameter RAM を参照してください。

PRAM バッテリー: PRAM バッテリーは Mac 終了後 PRAM に電力を供給する、3- 4 1/2 ボルトの電池です。

RAID: Redundant Array of Independent Disks を参照してください。

RAM: Random Access Memory を参照してください。

Random Access Memory: RAM とも呼ばれます。これはコンピュータに使用されるデータやプログラムを保存するメモリです。コンピュータの電源を切ると、保存内容は消えます。一般に、RAM は DIMM や SIMM と呼ばれるパッケージとして使用されます。

Read Only Memory: ROM は情報を恒久的に保存するためのチップです。Mac では、コンピュータが用いる作業ルーチンを収めています。ROM は電源を切っても情報が消えません。保存情報は恒久的で変更が不可能です。

Redundant Array of Independent Disks: 多くの場合 RAID と呼ばれます。RAID ソフトウェアは複数のハードディスクドライブをつないで1つ以上のボリュームのように見せることができます。これにより、より高速で安定したディスクアクセスを可能にします。最も知られた RAID 規格は、複数のドライブに並列にデータを割り振り速度を上げる RAID0 (ストライピング) と、複数のドライブに同じデータを同時に書き込んで信頼性を上げる RAID1 (ミラーリング) です。

Refresh Rate: 垂直同期周波数とも呼ばれます。モニタなどのディスプレイ表面で画像を描き直す頻度です。

Resolution 解像度: 画像の細かさの単位で、画素数やディスプレイ画面上に引ける縦横の線の数で表されます。

RGB: CRT にカラー画像を表現する映像の形式で、Red、Green、Blue を表します。異なる強さの赤、緑、青の信号を組み合わせ、モニタ上でほとんどの色を表示することができます。

ROM: Read Only Memory を参照してください。

SCC: Serial Communication Controller を参照してください。

SCSI: Small Computer System Interface を参照してください。

SCSI チップ: SCSI チップは Mac が SCSI 機器とやり取りができるようにします。ほとんどの SCSI を搭載した Mac は、8530 SCSI チップを使用しています。

SCSI コンフリクト: SCSI コンフリクトは、2つ以上の SCSI 機器が同じバス上で同じ ID 番号を所有したときに起こります。これが起こると機器の動作が不安定になったり、全く動かなくなったりします。

Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology: ほとんどの最新のハードディスクドライブで採用されている技術で、診断と分析を用いてドライブの不具合をそれが起こる前に予測可能にする業界標準です。

Serial Communication Controller: SCC と呼ばれ、Mac のすべてのシリアル処理を管理する集積回路です。

SIMM: Single Inline Memory Module を参照してください。

Single Inline Memory Module: SIMM と呼ばれる、コンピュータに使用されるメモリユニットです。小さなプリント基盤に RAM チップを装着したもので、装着や取り外しがしやすいよう SIMM スロットに差し込まれています。

S.M.A.R.T: Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology を参照してください。

Small Computer System Interface: SCSI として知られ、周辺機器がコンピュータとやり取りを行う方法を指定するパラレル接続方式の規格です。SCSI には

いくつか種類があります。SCSI を搭載した Mac に採用されている標準的な SCSI の転送速度は4MBps です。SCSI の最大転送速度は80MBps です。

USB: Universal Serial Bus の略で、機器をコンピュータに接続する中速の接続方式です。Mac では ADB に代わって採用されました。USB はホットスワップに対応しており、最大転送速度は12Mbps です。新しく策定された USB 2.0は 480Mbps の転送速度を実現しています。

Versatile Interface Adapter: VIA と呼ばれ、Mac においてユーザの入力を制御するのに使用される集積回路です。VIA は ADB や NuBus 回路に接続され、信号のタイミングを制御します。

VRAM: Video RAM の略で、コンピュータの画面に表示される情報を保持するメモリです。

アロケーションブロック: つながったセクタの集合として割り当てられたボリューム上のスペースをアロケーションブロックと呼びます。

アロケーションファイル: ボリューム構造のこのファイルは使用済みブロックと空きブロックを管理します。

アトリビュートファイル: ボリューム構造のこのファイルは、もしあればそのファイルがロックされているかどうか等のファイルの属性を管理します。

エクステントファイル: ボリューム構造のこのファイルは、ボリュームのエクステントデータを収めています。エクステントは断片化したファイルの個々の部分です。

回路: 電流が流れる導線で、電流が通る経路全体を指します。電気、電子機器やシステム内に配置され、特定の機能を行う部品です。

カタログファイル: カタログファイルはボリューム構造の一部です。ボリューム上のファイルとフォルダを管理します。

起動ファイル: ボリューム構造のこのファイルは、もしあれば ROM がコンピュータを起動するプログラムを決めるのに使用する情報を収めます。

キャッシュ: コンピュータのメモリ階層で、プロセッサとメインメモリの間に位置する高速の中間メモリです。メモリへのアクセス回数を減らすことが可能になります。

ジャーナリング: ジャーナリングは、Mac OS X 10.2.2以降の HFS+ ボリュームで使用可能な機能です。ジャーナリングが有効になっている場合、ファイルシステムは読み書きの記録を行います。これにより、ファイルシステムはより強靱になり、突然のシャットダウンの際もデータ消失から保護します。

初期化: 記憶媒体がデータを記録できるよう準備する作業です。初期化中、ボリュームのボリューム構造が作成され、データを保存する場所を指定します。初期化はディレクトリ情報を消去します。ただし、ファイル内のデータそのものはボリュームに残っています。

シリアル: 複数ビットのデータを同時に転送するパラレルに対し、シリアルは連続したデータビットとして情報を送る転送方式です。この方式は必要なデータ線が少なくすみ、パラレルが最大50本なのに対しシリアルは通常2本です。

セクタ: セクタはディスクドライブのトラックを分割した領域で、通常512バイトのデータを記録します。

ターミネーション: バスの末端にキャップをして、信号の反射を防ぐことです。SCSI バスは両端にターミネータが必要です。

チップ: チップ、および集積回路は、コンピュータ内にあって特殊な機能を持った非常に小さな電子部品です。

中央処理装置: 中央処理装置、およびメインプロセッサユニットは、最初のプログラム起動や命令の実行のような、マシンに関連した処理を行う装置を制御するチップです。

ディレクトリ: ボリューム構造の別名。

ディスク: ディスクはコンピュータのデータを保存する平らな円形の機器です。データは磁氣的または光学的に保存されます。もっともよく使用されるディスクは CD-ROM ディスクで、硬い透明なプラスチックでできています。

ディスクドライブ: ディスクおよびディスクスタックに保存されたデータを制御したりアクセスしたりするための機器。

ディスクドライバ: ハードディスクドライブ、フロッピードライブ、光学式ドライブのような、ブロックを移動するデバイス用のドライバ（「ドライバ」を参照してください）です。そのデバイス用のハードウェア抽象化レイヤを提供するソフトウェアです。

デバイス: デバイスはコンピュータに接続可能な機器のことです。モニタ、ディスクドライブ、プリンタなどが当てはまります。周辺機器とも呼ばれることがあります。

ドライバ: ドライバ（またはデバイスドライバ）は、コンピュータがプリンタやハードドライブなどのデバイスとやり取りできるようにするソフトウェアです。皆さんが新しいデバイスを購入すると、たいていドライバが付属のソフトウェアとして提供されます。

ドライブ: ドライブはデータを保存するコンピュータの周辺機器です。テープカートリッジやディスクなどの媒体を使用します。ドライブは「読み込み専用」あるいは「読み書き可能」のものがああります。

パーティション: ディスクはパーティションという領域に分けられます。パーティションはディスクドライバが特定ボリュームに割り当てる、ディスク上のアドレスのブロックです。

パーティションマップ: パーティションマップは、ディスク上の各パーティションの開始地点、長さ、種類についての情報を保持しています。

バス: バスはコンピュータとそれに接続された機器との間で情報をやり取りする通り道です。例えば USB バスは、コンピュータをキーボードやマウスなどの USB 機器と接続します。

バックアップ: コンピュータの情報の正確なコピー。データ消失や破損の際は、オリジナルのデータをバックアップから取り出すことができます。

パラレル: パラレルはシリアルの反意語で、マルチペアコネクタを通じて複数ビットの情報を同時に転送する転送方式です。一度に複数ビットのデータを転送できるため、シリアル転送より相当速くなります。SCSI ポートはパラレルポートです。

ファイルシステム: どのボリュームも、自身が保存する情報を整理するのにファイルシステムを使用しています。ファイルシステムは、ファイルがボリューム上のどこにあるかを管理します。Mac は通常 HFS か HFS+のいずれかのファイルシステムを使用しています。

ファームウェア: これは恒久的に ROM(Read Only Memory)に記録されたソフトウェアです。ハードウェアとソフトウェアの橋渡しをするものです。

プロトコル: コンピュータが通信できるようにコンピュータの動作を規定した約束ごとの集合です。

ヘッド: 記憶媒体にデータを読み書きしたり、消去したりする部品です。

ヘッドクラッシュ: 読み書き用のヘッドと、フロッピーやハードディスク表面とが接触することです。

ベンチマークテスト: 一定の設定で、コンピュータのソフトウェアやハードウェアの性能を評価するために行うテスト。

ボリューム: ボリュームはコンピュータが単独の項目として認識する論理的な記憶装置を指します。フロッピーディスク、ハードディスク全体、ハードディスクの1つ以上のパーティションなどがボリュームとされます。1つのパーティションは通常1つのボリュームとして認識されますが、RAID ボリュームは2台以上のドライブにある2つ以上のパーティションで構成される場合があります。

ボリューム構造: ファイルシステムがボリュームに保存されたデータを整理するのに使用する、ボリュームのデータ構造の集合です。ボリュームヘッダやカタログなどが相当します。

ボリュームヘッダ: ボリューム構造のこの部分には、ボリューム名、ファイルやフォルダの数、空き容量など、ボリューム全体に関する重要な情報が収められます。

マウントポイント: ボリュームのマウントポイントとは、そのボリュームが表示されるディレクトリ階層内における場所です。ボリュームはマウントポイントのサブディレクトリとして表示されます。Mac OS X では通常/Volumes のように表されます。

ルートディレクトリ: ボリュームのディレクトリの最上位です。たいていサブディレクトリ（フォルダ）を収めています。

ロジックボード: ロジックボードはあらゆるコンピュータシステムの主要な構成物です。コンピュータが行う多数の演算を実行するのに必要なすべての部品を搭載しているため、コンピュータの頭脳とも呼ばれます。ここにCPUやメモリなど、コンピュータの主要な部品が置かれています。

テクニカルサポート

日本におけるお問い合わせ先：

株式会社アクト・ツー サポートセンター

電話： 050-3385-8521

(受付時間：平日 10:00-12:00/13:00-16:00)

FAX： 03-5352-7880

サポートセンターにお電話をされる際には、お持ちの TechTool Pro ライセンスキーとバージョンナンバーをお知らせください。また、以下の情報についても事前にご確認ください。

- 起こっている現象の概要
- お使いの TechTool Pro のバージョン
- お使いの Mac とそのシステム構成 (例: Apple Mac G4/466, 256 MB RAM, 30 GB 内蔵ハードディスク)
- インストールされている Mac OS X のバージョン

インターネット：<http://www.act2.com/support/>

ご登録のメールアドレスとパスワードでログインし、「ご購入済み製品に関するご質問」より送信することができます。アカウントをお持ちでない方は、まずアカウントを作成し、ユーザ登録をお済ませください。

